

2010年度 昭和会誌 診療部門



公益財団法人昭和会 IMAKIIRE GENERAL HOSPITAL

SHOWAKAI CLINIC

今給黎総合病院・昭和会クリニック

もくじ

- 3 内科（総合内科）
- 5 糖尿病内科
- 7 消化器内科
- 10 循環器内科
- 11 呼吸器内科
- 15 神経内科
- 19 外科(消化器・乳腺・甲状腺・小児・肛門)
- 20 呼吸器外科
- 22 整形外科・リハビリテーション科
- 27 形成外科
- 29 脳神経外科
- 31 産婦人科
- 34 新生児内科
- 38 小児科
- 40 泌尿器科
- 41 眼科
- 42 気管食道・耳鼻いんこう科
- 43 皮膚科
- 45 麻酔科
- 46 放射線診断科
- 48 放射線治療科
- 49 緩和医療科
- 50 病理診断科
- 53 在宅診療科
- 55 歯科、歯科口腔外科

内科(総合内科)

総合内科部長 生野博久

当院総合内科は以前斉藤先生が部長として勤務されていましたが、しばらく担当がおらず、平成16年より生野博久と二木真琴先生が担当し再開しました。

総合内科の業務は、外来では感染症、健康診断、ワクチン接種、午後の外来のバックアップ、入院では感染症、不明熱の診断治療などです。ワクチン接種に関しては昨年度はインフルエンザを含めて799件行いました。本年よりは色々な科の研修を続けて消化器疾患、内科全般に詳しい大磯先生にも手伝っていただく事となりましたので更なる業務内容の検討も行う予定です。

一昨年はメキシコより感染が広がったブタ由来A型インフルエンザ(H1N1)の流行が日本にもおしよせ、当科へも多く患者さんが来院されました。当院は発熱外来を設けて患者様に受診していただきましたが、初めての事で戸惑いと集団発生する感染症への対応の困難さを痛感しました。この感染症により世界中で1万4千人以上(WHOの報告より)が亡くなっています。日本でも200人程度(厚生労働省報告より)が亡くなられました。早期の診断、タミフル、リレンザの投与は効果的であったと考えています。

3年前の4月より特定健診が開始されました。これは最近話題の代謝症候群を診断し治療、指導するのを目的としています。脳出血、脳梗塞、心筋梗塞の原因となる動脈硬化には以前より高血圧、高脂血症、肥満、糖尿病などの危険因子があるとされていました。代謝症候群とは特に女性で診断基準が問題になっていますが、腹部に内臓脂肪の蓄積がある場合は程度の軽い危険因子の組み合わせによっても動脈硬化が非常に進行しやすいという概念です。自覚症状のある前に早期に動脈硬化の危険因子を発見し治療するためには、健康診断は重要と思われまます。

当科は高齢者の患者様が特に多く、病気の治療は当然ですが、治癒した後の退院先での follow up が大変重要と思われまます。専門性が利用できる場所は生かし、MSW(ケースワーカー)、在宅医療部との連携を保ち、より良い quality of life を目指した治療を考えて行きたいと思われまます。

平成17年よりNST(nutrition support team)の活動も行っています。これは患者様の栄養状態を把握して、栄養補給を補助する多種職種を含めた委員会活動です。主治医が希望する低栄養状態の患者様を栄養士、PT、ST、薬剤師、看護師と供に回診を行い、主治医への助言、補助を行っています。平成19年の5月からは入院時血清アルブミン値が低い患者様のスクリーニングも開始しました。昨年2月よりは入院患者様のカルテも電子カルテ化されましたので、スタッフと患者様の栄養状態の確認、検討を行い病棟への回診を行うように変更しました。本年2月には学会でサプリメントの効果について発表も行いました。当科としては地道に診療、委員会活動を続けようと思われまます。

【平成22年度 予防接種件数】

	3 価 イン フル エン ザ	お た ふ く	エ イ ム ゲ ン	ビ ー ム ゲ ン	麻 し ん	風 し ん	狂 犬 病	破 傷 風	水 痘	麻 し ん ・ 風 し ん	ニ ュー モ バ ク ス	合 計
4月	0	1	0	0	0	0	2	0	0	5	0	8
5月	0	2	0	0	0	0	0	0	0	4	0	6
6月	0	1	1	1	0	1	0	0	0	7	0	11
7月	0	1	1	0	0	0	0	0	0	5	0	7
8月	0	2	0	0	0	1	0	0	1	12	0	16
9月	0	0	0	19	0	0	0	0	0	3	0	22
10月	131	0	1	17	1	0	0	0	0	1	2	153
11月	349	0	1	1	0	0	0	0	0	2	2	355
12月	117	0	1	1	0	0	1	0	0	3	6	129
1月	39	1	0	14	0	0	0	0	0	1	5	60
2月	2	2	0	2	0	0	0	0	0	4	0	10
3月	1	0	0	0	0	1	0	0	0	19	1	22
総合計	639	10	5	55	1	3	3	0	1	66	16	799

【学会報告】

持続注入中に栄養チューブの閉塞を繰り返した胃全摘術後の症例

日本静脈経腸栄養学会学術集会 ポスター発表 名古屋国際会議場 2011年2月18日

○伊野 千余子、小野 保代、末吉 由美子、中村 章子、鈴木 聖子、生野 博久、鎌田 ユミ子

広範囲熱傷患者に対するImmono-modulating-Dietとシンバイオティクス療法の経験

日本静脈経腸栄養学会学術集会 ポスター発表 名古屋国際会議場 2011年2月17日

○鈴木 聖子、上平田 美樹、高木 信介、小野 保代、伊野 千余子、徳永 弘樹、生野 博久

糖尿病内科

糖尿病内科部長 盛満 慎吾

【診療内容、特色】

鹿児島県内最大の民間の総合病院であることの人的および設備的なメリットを生かして、あらゆる病期の糖尿病患者さんにつきまして、血糖コントロールおよび慢性透析を除く全ての糖尿病に伴う合併症の管理が出来ます。ただ、本年度も担当医師が常勤医1名、非常勤医1名と少なく、また、後述します様に、次年度より非常勤医が都合により退職となるため、管理出来る患者さんの数は、より一層、限界に近付いております。そのため、病状が落ち着いておられる患者さんにつきましては、掛かり付けの医療機関に紹介させて頂き、受け入れ可能患者数の確保に努めております。

【スタッフ紹介】

部長 盛満 慎吾

所属学会：日本内科学会、日本糖尿病学会、日本内分泌学会

資格：日本内科学会総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医

医員（非常勤） 奥 寛子

所属学会：日本内科学会、日本糖尿病学会、日本神経学会

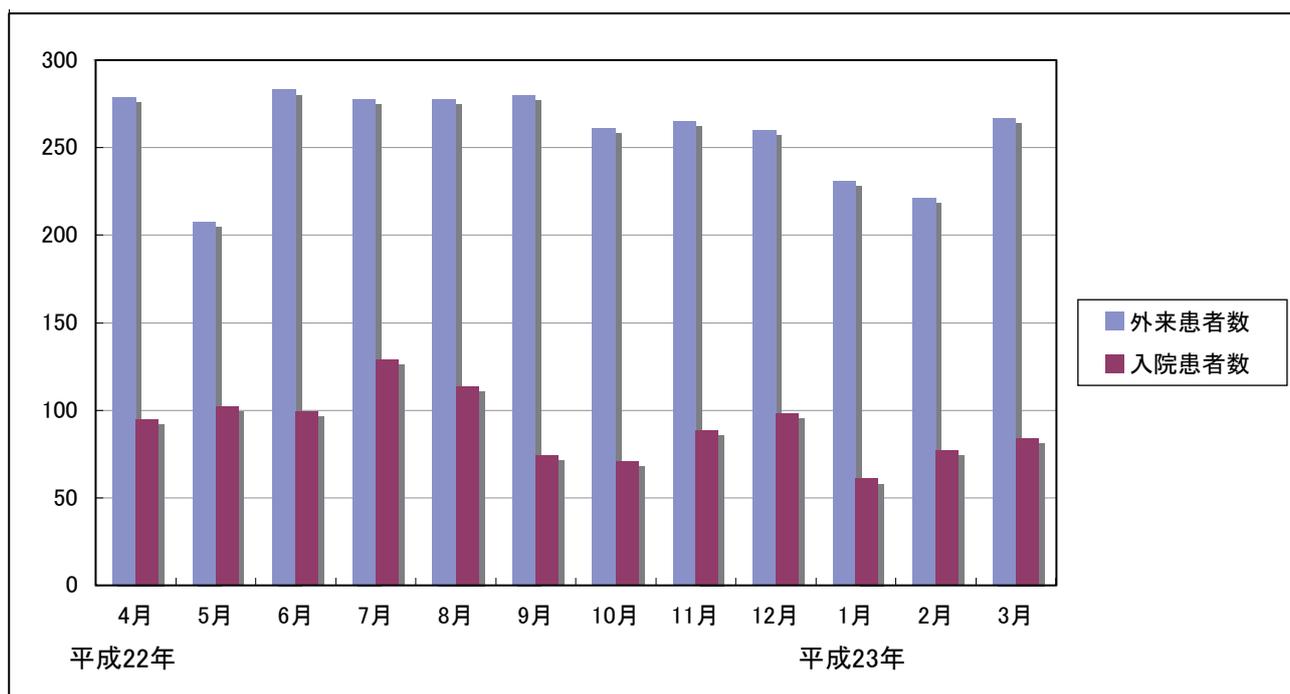
人事：本年度は特になし

次年度より奥医師が退職予定

【外来診察担当】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
AM	盛満*1	盛満	盛満	盛満	盛満*1	奥*2
PM	休診	休診	休診	休診	休診	

*1 予約再診のみ *2 隔週で予約再診のみ（平成23年4月より休診）



【平成23年度の計画】

昨年と同様の常勤医1名、隔週の非常勤医1名と少ない医師数での診療体制に対し、患者さんの増加、特に無治療や合併症をお持ちの重症な患者さんの増加は著しく、現在の当科の診療体制では質および量の面において限界に近付きつつあります。また、人事の項で前述しましたように、本年度より一緒に診療に携わっておりました奥医師が、都合により退職となったために、平成23年度は、常勤医1名での診療体制となり、より一層、患者さん方には十分な医療を提供出来なくなっております。そのために、それへの対応策として、以前より推し進めております開業医の先生方との地域連携パスを含めた病診連携をより一層進めることによる外来診療の効率化と、また、担当医の確保という人的資源の充実を図ってまいりたいと思います。今後とも開業医の先生方には、引き続き、色々ご協力をお願いすることもあるかとは思いますが、その際は、ご理解とご協力の程を頂きますように、この場をお借りしてお願いする次第です。その際は宜しく願い申し上げます。

また、糖尿病性細小血管障害の評価については、入院下でも十分に行なえておりますが、以前は、入院下で行っておりました動脈硬化性疾患の評価や悪性腫瘍のチェックが、DPC（診断群分類包括評価）といわれる包括医療制度上、入院下では十分に行ない難くなってきております。そのために、動脈硬化性疾患の評価や悪性腫瘍のチェックは外来で行なえるように、現在、システムの構築中であります。

最後に、糖尿病患者さん方に対して、一病息災という理念の下に、QOLを維持しつつ健康な方々とかかわらない寿命を可能な限り保障出来るように、今後とも努力してまいりたいと思います。今後ともかわらぬご支援の程をお願い申し上げます。

消化器内科

消化器内科部長 古賀 哲也

消化器内科は、月曜日から金曜日まで内視鏡を含む超音波を使った検査、および治療が行われています。診療は、常勤医4名の他、4名の非常勤医で行っています。

検査は上部・下部消化管内視鏡検査、腹部超音波検査、上部・下部超音波内視鏡検査、超音波内視鏡下生検、内視鏡的逆行性膵胆管造影、IDUS、胃透視、注腸検査を行っております。

処置は、上部・下部消化管内視鏡的止血術、経肛門的イレウスチューブ留置術、イレウスチューブ留置術、内視鏡的異物除去術、内視鏡的食道拡張術、EIS・EVL、内視鏡的食道粘膜切除術、内視鏡的胃粘膜剥離術、内視鏡的大腸ポリープ切除術、食道ステント留置術、大腸ステント留置術、内視鏡的胆道ドレナージ術、内視鏡的乳頭切開および拡張術、内視鏡的胆道メタリックステント留置術、内視鏡的胃瘻増設術、PEG-J、経皮経肝胆道ドレナージ術、経皮経肝胆嚢ドレナージ術、経皮経肝胆嚢穿刺吸引術と多岐に渡っております。

当科の特徴は、内視鏡のほとんどすべての処置を満遍なく扱っていること、総合病院の特徴から他疾患やリスクの高い患者さんが多いこと、消化管全般の化学療法（入院・外来）を行っていること、緊急処置を要する患者様の緊急搬送が多いことです。外来は離島を含めた県内各地の病院から紹介を頂いております。

内視鏡室には3名の専属スタッフがおり、当科の高い安全性と成功率を維持する要となっております。

【診療状況】2010年度

外来患者 8,649名 初診 1,981名 再診 6,668名

入院患者 455名 / 年

【検査件数】(2010年度)

検査名	件数
上部消化管内視鏡検査	2,077 経鼻：82
下部消化管内視鏡検査	801
上部超音波内視鏡検査(EUS)	34
下部超音波内視鏡検査(CUS)	2
超音波内視鏡下生検(FNA)	2
内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)	13
IDUS	11
小腸内視鏡検査	8
PTCS	2
胃透視(MDL)	0
注腸(BE)	0

【処置件数】(2010年度)

処置名	件数
上部消化管内視鏡的止血術	65
下部消化管内視鏡的止血術	14
経肛門的イレウスチューブ留置術	9
イレウスチューブ留置術(上部)	25
内視鏡的異物除去術	17
内視鏡的食道拡張術	9
EIS・EVL	15
内視鏡的食道粘膜切除術	0
内視鏡的胃粘膜剥離術	4
内視鏡的大腸ポリープ切除術	130
内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	0
食道ステント留置術	8
十二指腸ステント留置術	3
大腸ステント留置術	0
内視鏡的胆道ドレナージ術(ENBD・ERBD)	57
内視鏡的乳頭切開および拡張術(EST・EPBD)	13
内視鏡的胆道メタリックステント留置術	5
内視鏡的胃瘻増設術(PEG)	19
PEG-J	5
経皮経肝胆道ドレナージ術(PTCD)	2
経皮経肝胆嚢ドレナージ術(PTGBD)	1
経皮経肝胆嚢穿刺吸引術(PTGBA)	8
軸捻転整復	1

【講演・学会活動など】

【論文】

腹腔鏡補助下経皮内視鏡的胃瘻造設術(LAPEG)の3例
診断と治療 98巻 8号 2010 161-164
渡邊照彦、古賀哲也、宮川佳保、木原研二、
夏越祥次

胃瘻損傷による腹膜炎に対し、腹腔鏡下手術が有効であった1例
臨床と研究 87巻 8号 2010年8月 98-95
渡邊照彦、古賀哲也、宮川佳保、木原研二、
夏越 祥次

【症例報告】

透視併用経鼻内視鏡下“Direct”法PEGの有用性
第89回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
北九州国際会議場 福岡 2010年6月18日
古賀哲也、軸屋賢一、田村智章、大磯陽子、
牧尾善幸、税所篤郎、松元 淳、坪内博仁

高齢発症の食道アカラシアの1例
第89回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
北九州国際会議場 福岡 2010年6月18日
軸屋賢一、古賀哲也、田村智章、大磯陽子、
牧尾善幸、税所篤郎、松元 淳、坪内博仁

EUS-FNAが診断治療に有用であった胃GISTの1症例
第89回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
北九州国際会議場 福岡 2010年6月18日
古賀哲也、軸屋賢一、田村智章、牧尾善幸、
税所篤郎、松元 淳、坪内博仁

健常人に発症したサイトメガロウイルス胃炎の1例
第89回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
北九州国際会議場 福岡 2010年6月18日
田島誠一郎、古賀哲也、軸屋賢一、田村智章、
牧尾善幸、税所篤郎、松元淳、坪内博仁

経腸栄養中に急性胆嚢炎を発症した5例
第15回PEG・在宅医療研究会(HEQ) パシフィコ横浜
横浜 2010年9月11日
今給黎総合病院 消化器内科¹⁾、内視鏡室²⁾、
栄養管理部³⁾
古賀哲也¹⁾、川西幸洋²⁾、塗木良幸²⁾、
上平田美樹³⁾、田村智章¹⁾

内視鏡検査前処置における散布法とネラトン法との比較
第40回日本消化器がん検診学会九州地方会
鹿児島県医師会館 2010年9月11日
消化器内科 内視鏡室
川西幸洋、西山佑佳、西 晴加、塗木良幸

大腸内視鏡検査前処置におけるリン酸Na製剤とPEG
溶液の比較ー有効性、受容性、これからの課題ー
第40回日本消化器がん検診学会九州地方会
鹿児島県医師会館 2010年9月11日
消化器内科 内視鏡室
西山佑佳、西 晴加、塗木良幸、川西幸洋

がん検診便潜血検査陽性にて治療後5年生存を保
っている1例

第40回日本消化器がん検診学会九州地方会
鹿児島県医師会館 2010年9月11日
永井利明、古賀哲也、田村智章、犬塚貞利、
大磯陽子

検診を機に見つかった微小胃癌の一例
第40回日本消化器がん検診学会九州地方会
鹿児島県医師会館 2010年9月11日
田島誠一郎、古賀哲也、藤崎瑛隆、福田宏正、
永井利明、大磯陽子、田村智章、立石清一郎、
犬塚貞利、税所篤郎

進行食道癌、進行胃癌における経腸栄養管理に難
渋した1例

第2回日本静脈経腸栄養学会 九州支部学術集
会 石橋文化センター 福岡 2010年9月18日
永井利明

耐術不能の重症および中等症急性胆嚢炎に対する
経皮経肝の胆嚢管吸引穿刺法の有用性

第46回日本胆道学会 広島市 2010年9月24日
古賀哲也、松本淳

Fitz-Hugh-Cutis Syndの2例

第20回日本超音波医学会 九州地方会学術集
会 長崎ブリックホール 長崎 2010年10月3日
永井利明

内視鏡的食道バルーン拡張術が著効した食道アカ
ラシアの3例

第80回日本消化器内視鏡学会 パシフィコ横浜
横浜 2010年10月13-16日
今給黎総合病院 消化器内科
軸屋 賢一、古賀哲也、田村智章、大磯陽子、
牧尾 善幸、税所 篤郎
鹿児島県民総合保健センター 松元 淳
鹿児島大学大学院消化器疾患・生活習慣病学
坪内博仁

健常人に発症したサイトメガロウイルス胃炎の2症
例の検討

第80回日本消化器内視鏡学会 パシフィコ横浜
横浜 2010年10月13-16日
今給黎総合病院 消化器内科
古賀哲也、軸屋 賢一、田村智章、大磯陽子、
牧尾 善幸、税所 篤郎
鹿児島県民総合保健センター 松元 淳
鹿児島大学大学院消化器疾患・生活習慣病学
坪内博仁

進行食道小細胞癌の2例

第1回がん治療連携カンファレンス
今給黎総合病院 2010年10月16日
永井利明

進行食道小細胞癌の2例

第10回鹿児島消化器・生活習慣病フォーラム
城山観光ホテル 鹿児島市 2010年10月24日
永井利明、古賀哲也

シスプラチン(CDDP) + エトポシド(VP-16)療法が著効した食道小細胞癌の1例

第96回日本消化器病学会九州支部例会/第90回
日本消化器内視鏡学会九州支部会 沖縄
2010年11月12日
今給黎総合病院 消化器内科
永井利明、古賀哲也、田村智章、犬塚貞利、
大磯陽子、税所篤郎
鹿児島県民総合保健センター 松本 淳
鹿児島大学大学院 消化器疾患・生活習慣病学
坪内博仁

急激な経過を示した大腸癌・閉塞性腸炎の1例

第96回日本消化器病学会九州支部例会/第90回
日本消化器内視鏡学会九州支部会 沖縄
2010年11月12日
今給黎総合病院 消化器内科
福田宏正、古賀哲也、永井利明、大磯陽子、
田村智章、犬塚貞利、牧尾善幸、税所篤郎
鹿児島県民総合保健センター 松本 淳
鹿児島大学大学院 消化器疾患・生活習慣病学
坪内博仁

経鼻胃管により胃粘膜下トンネル様の粘膜障害をきたした1例

第96回日本消化器病学会九州支部例会/第90回
日本消化器内視鏡学会九州支部会 沖縄
2010年11月12日
今給黎総合病院 消化器内科
藤崎瑛隆、田村智章、永井利明、大磯陽子、
犬塚貞利、古賀哲也、税所篤郎
鹿児島県民総合保健センター 松本 淳
鹿児島大学大学院 消化器疾患・生活習慣病学
坪内博仁

PEG-J施行後に急性膵炎を発症した1例

第96回日本消化器病学会九州支部例会/第90回
日本消化器内視鏡学会九州支部会 沖縄
2010年11月12日
今給黎総合病院 消化器内科
田島誠一郎、古賀哲也、永井利明、大磯陽子、
田村智章、犬塚貞利、牧尾善幸、税所篤郎
鹿児島県民総合保健センター 松本 淳
鹿児島大学大学院 消化器疾患・生活習慣病学
坪内博仁

総胆管結石に対するEST・EPBD併用法の有用性

第96回日本消化器病学会九州支部例会/第90回
日本消化器内視鏡学会九州支部会 沖縄
2010年11月13日
今給黎総合病院 消化器内科
古賀哲也、永井利明、大磯陽子、田村智章、
犬塚貞利、牧尾善幸、税所篤郎
鹿児島県民総合保健センター 松本 淳
鹿児島大学大学院 消化器疾患・生活習慣病学
坪内博仁

同時性3多発大腸癌の1例

第291回日本内科学会九州地方会例会
鹿児島市 2010年11月14日
永井利明

【ワークショップ】

耐術不能の重症および中等症急性胆嚢炎に対する
経皮経肝的胆嚢管吸引穿刺法の有用性

第46回日本胆道学会 ワークショップ「重症
旧姓胆道炎の診断とその対策」 広島市
2010年9月24日
古賀哲也、松本淳

【シンポジウム】

透視併用経鼻内視鏡下“Direct法”PEGの有用性

第89回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
北九州国際会議場 福岡 2010年6月19日
古賀哲也、軸屋賢一、田村智章、大磯陽子、
牧尾善幸、税所篤郎、松元 淳、坪内博仁

EST・EPBD併用法の検討

第4回鹿児島胆膵研究会 鹿児島県医師会館
2010年7月22日
古賀哲也

【特別企画】

コロノモデルキットを用いた大腸内視鏡手技研修
システムの検討

第96回日本消化器病学会九州支部例会/第90回
日本消化器内視鏡学会九州支部会 沖縄
2010年11月12日
今給黎総合病院 消化器内科
古賀哲也、永井利明、大磯陽子、田村智章、
犬塚貞利、牧尾善幸、税所篤郎
鹿児島県民総合保健センター 松本 淳
鹿児島大学大学院 消化器疾患・生活習慣病学
坪内博仁

【座長】

第89回日本消化器内視鏡学会九州支部例会

一般演題 消化管炎症

北九州国際会議場 2010年6月19日
古賀哲也

【講演】

内視鏡技師によって生み出された匠の技について
一医師、内視鏡技師、看護師が共同して作り出す
安全な内視鏡の医療環境を求めて一

第11回鹿児島県消化器内視鏡技師会研修会
鹿児島大学医学部鶴稜会館 2010年7月24日
古賀哲也

【講義、教育活動】

久木田学園看護専門学校講座派遣医師

古賀哲也：消化器の構造と機能、病態生理、
疾患の理解 講座時間 14時間

循環器内科

循環器内科部長 大場 一郎

【特色】

当科は鹿児島大学大学院医師学総合研究所循環器・呼吸器・代謝内科学教室（鄭忠和教授）から循環器内科スタッフとして派遣された三名の常勤医で構成されています。循環器疾患の外来・入院診療、他科から依頼の術前および心疾患精査、救急患者の対応を経胸壁・経食道心エコー、頸動脈エコー、下肢血管エコーなど超音波検査、運動・薬物負荷検査、冠動脈造影 MDCT を駆使し生理検査室、放射線科と連携のもと多様に診療をこなしています。

【人事・スタッフ】

平成22年度の循環器内科の診療実績について御紹介申し上げます。医師の人事異動はこの1年ではなく、大場一郎、下舞浩二、向井尊の三名で日々の診療をこなしています。その他に当院および鹿児島大学の研修ローテーションからの研修医を加えて日々の診療を行っています。研修医には病棟で副主治医として患者様の治療を専念してもらいながら、外来での心エコーや下肢静脈エコーのトレーニングを受けてもらいます。超音波検査については循環器内科医師と共に生理検査技師の富吉裕児、森田修康が研修医の指導を担当します。当院では心臓カテーテル検査を行っていないことから、希望があれば鹿児島医療センター第一循環器科へ依頼し、週一回程度の心臓カテーテル検査研修を受けることが出来ます。

【診療状況】

1) 外来診療

外来診察は部長が金曜以外の毎日午前中と水曜の午後、他のスタッフが隔日で午前中の診察にあたります。外来患者数は一日あたり30-50名程度で、待ち時間の解消のための予約制をとっていますが、予約外の飛び込み受診、新患や急患、他院や他科からの紹介を組み込まざるをえず、限られたマンパワーの中ではなかなか予約通りにはいかないのが実情です。高血圧、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病、狭心症・心筋梗塞など虚血性心疾患、陳旧性心筋梗塞後や拡張型心筋症など心筋疾患による慢性心不全、心房細動、上室性頻拍などの不整脈および弁膜疾患、下肢閉塞性動脈硬化症（ASO）や深部静脈血栓症（DVT）など下肢血管疾患や大動脈解離などの救急対応と循環器疾患全般の診療を行っています。当科の特徴としては術前心機能評価目的での他科依頼の多さです。冠動脈造影MDCT診断が放射線部のレベルアップによる

解析の迅速化で、大量かつ詳細な画像診断が可能になりました。冠動脈造影検査や冠動脈インターベンションが必要な場合は、当院では心臓カテーテル検査およびカテーテル治療は行わないため、鹿児島大学病院・鹿児島医療センター・鹿児島市立病院・天陽会中央病院といった心臓カテーテル関連施設との緊密な連携によりスピーディな診断・加療を実現しています。また、上記の鹿児島市における循環器基幹病院と合同でカンファレンスや研究発表を行う機会も多く、先進医療の動向にも充分対応出来ます。

2) 入院診療

最も多い症例は高齢者の慢性心不全の増悪により救急搬送されるケースです。ICU管理で循環・呼吸状態を改善させ内科病棟へ転棟し全身状態の改善をみて退院となります。最近では鹿児島大学心臓血管内科と連携して和温療法を導入し、従来の治療では難渋する症例に効果を発揮しています。ペースメーカー植え込み術はほぼ毎月一件のペースで行っています。整形外科など長期臥床化する症例が多いことから下肢静脈血栓症例は増加がみられ、放射線科と共同して下大静脈フィルターによる肺塞栓予防を積極的に行っています。

【平成23年度に向けて】

現在の診療内容をさらに充実させながら、大学病院や鹿児島医療センターといった最新機器や情報の豊富な施設との人的・物的交流をいっそう深めていきます。総合病院である当院の特色から循環器科に限らず幅広い疾患を経験する機会が多く、研修医の対応にも力を入れていく予定です。

【手術症例数】（平成22年度）

ペースメーカー移植術

- 1) 新規 : 2件
- 2) 入れ替え : 2件

【超音波検査件数】（平成22年度）

- ・心エコー : 約2,880件
- ・頸動脈エコー
経胸壁心エコー時にルーティンに行っています。
- ・下肢血管エコー 約280件

【冠動脈MDCT】

約300件

呼吸器内科

呼吸器内科部長 岩 川 純

平成23年4月から、当科は岩川以下川島、窪田、田上医師の4人体制となりました。また週に1回野間池診療所長の内田医師に外来をしていただいております。呼吸器外科、放射線科、病理科とも協力しより良い呼吸器疾患の診療にあたってまいります。また、他科とも連携して患者さまに対して全人的に診療に当たるように努めてまいります。当科は日本呼吸器病学会関連施設です。より充実した診療を目指し努力してまいります。

【当科の主な診療内容】

肺炎、呼吸器感染症

日本呼吸器学会や感染症学会の市中肺炎ガイドライン、院内肺炎ガイドラインに準拠して診断、治療にあっています。結核については当院には結核病床がないため、外来での診療が主となります。

肺炎球菌ワクチン接種も行っています。

肺癌

胸部レントゲン、CTなどの画像診断、気管支鏡を行い、肺がんの診断を行います。放射線科、外科、病理と連携して患者様ごとの最も適切な治療について検討し、治療について提案いたします。

内科領域では抗がん剤による治療が中心となります。痛みをとる緩和治療も行っています。

外来での抗がん剤治療も積極的に行っています。担当医にご相談ください。

気管支喘息

鹿児島県は2003年の統計で人口10万人あたりの喘息死全国平均2.9人に対して6.6人で全国最下位を記録しています。気管支喘息は、吸入ステロイドを中心とした治療でコントロール可能な患者さんが増えています。当科ではぜんそく死ゼロを目指して鹿児島気管支喘息研究会の協力病院（拠点病院）として活動しています。

間質性肺炎

治療、診断が困難な疾患でしたが徐々に病態が解明されつつあります。治療についても進歩しています

肺気腫、慢性呼吸不全

肺機能、画像所見からの的確な診断を行い、状態にあった治療を選択するように努めています。呼吸リハビリテーションや薬物治療、禁煙指導を行います。状態によっては在宅酸素療法の導入や非侵襲的陽圧換気療法（鼻マスク式人工呼吸器）も使用しています。

当科では、学会、研究会に積極的に参加して最新の医療を学び、院内、当科でのカンファレンスで患者さまごとの最良の医療を提供できるように努力しております。

【外来診療】

月曜日から金曜日は外来担当を決めて診療しております。土曜日については、本年度から救急患者のみの対応とさせていただきます。

平成17年度からの外来患者延べ数と新患者数を表1に示します。平成18年度以降外来患者数では6000人前後で新患者数も1000人前後です。

表1)

	延べ患者数	新患者数
2005年	5,434	1,202
2006年	6,527	1,347
2007年	6,678	1,302
2008年	6,979	1,152
2009年	7,498	986
2010年	7,578	767

平成22年度の定期外来受診した患者さまの疾患では、気管支喘息が最多で410例、ついで肺炎が約300例でした。また肺がんは68例で、間質性肺炎が30例、肺気腫は90例でした（重複を含む）。

【禁煙外来】

水、金の午前中のみ外来となります。他院での治療困難な方に限定させていただいており、予約制です。ご希望の方はかかりつけ医の先生にご相談のうえ、紹介をいただくようお願いしております。

【入院診療】

入院診療としては平成18年から3階西病棟を主病棟として診療に当たることとしました。各病棟に患者さまが点在すると非効率のみでなく、看護師との連携も困難でよりきめ細やかな診療ができないと考えました。また、看護師をはじめスタッフの教育の点でも不利と判断したためです。軽症患者さまであれば他病棟に入院することはありますが、呼吸不全を有する患者さまなどは3階西病棟に入院していただくようにしています。さらに人工呼吸器が必要となる急性疾患などは状態によってはICUでの治療するようにしています。入院患者数の内訳を表2に示します。

表2)

	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度
肺癌	267	243	358	338	335	321
肺炎	110	110	121	133	114	110
びまん性肺疾患	22	21	18	31	49	62
喘息	13	28	24	26	14	21
慢性閉塞性肺疾患	7	5	11	14	12	11
肺結核	13	4	5	16	13	9
その他	161	154	144	198	157	144
合計	593	565	681	756	694	678

平成22年度疾患ごとでは肺がんのために入院した延べ患者数が321例と最多となっています。平成18年8月から平成19年7月までの1年間、当科で新規に肺がんと診断された患者数は116例うち呼吸器外科で手術可能な患者様は1/3程度でした。手術ができないⅢb期以上の患者が多いのが実情です。治療としては進行肺がんで高齢、全身状態が不良のため抗がん剤による化学療法ができなかった数例を除き、化学療法を施行しています。化学療法は複数回の治療となるため1人の患者さまが2-6回入院するため延べ患者数では最多となっています。肺がんについては患者さまには病名を告知し、標準的に肺がんで使われている化学療法を選択し、効果も説明して納得して治療を受けていただくようにしております。また入院だけでなく外来での化学療法を積極的に行い、患者さまの負担を軽減するように努めています。

他の疾患としては肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患についても学会などの推奨するガイドラインに基づき経験だけに頼らない、根拠のある治療を目指しています。

平成22年度の気管支鏡検査の数としては呼吸器内科155例で大きな合併症はありませんでした。気管支鏡を行い肺がん疑いで行った、気管支鏡検査を行った77例中46例60%で組織または細胞診で診断が確定しています。重篤な合併症はありませんでした。診断率は例年60-70%で、今後も診断確率を上げるべく適応を考慮し、安全に的確な検査を施行していきます。

最後に、当科が円滑に診療を行えるのも3階西病棟の榎師長をはじめ病棟スタッフ、外来スタッフや多くのコメディカルの方々のお陰です。紙面ではありますがお世話になっている方々に厚く御礼申し上げます。

【スタッフ】

略歴

岩川 純

1995年 鹿児島大学医学第3内科入局 研修医
 1997年 県立北薩病院 呼吸内科医師
 1999年 長崎大学 第二内科
 感染症グループに国内留学
 2001年 ネブラスカ州立大学 留学
 2003年 出水市立病院呼吸器内科医長
 2005年 鹿児島大学病院 呼吸器内科医員
 2006年 今給黎総合病院呼吸器内科 部長 現職

<所属学会>

日本内科学会 日本呼吸器学会
 日本感染症学会 日本化学療法学会
 日本臨床腫瘍学会 日本肺癌学会
 日本アレルギー学会

<取得資格>

医学博士 07年3月 学位取得（鹿児島大学）
 鹿児島大学学位授与
 日本内科学会認定医
 日本内科学会総合内科専門医
 日本呼吸器学会 専門医
 日本がん治療認定医
 ICD

<受賞>

2001 University Nebraska Outstanding PHD Award
 2002 AMERICAN THORACIC SOCIETY Young Investigator Award
 2003 鹿児島大学第3内科 海外留学奨励賞
 2004 鹿児島大学第3内科 症例報告賞
 2006 鹿児島大学第3内科 症例報告賞

川島 寿史

1998年 鹿児島大学 第3内科入局
2000年 出水市立病院
2001年 今村分院
2003年 川内市民病院
2008年 国立病院機構 南九州病院 呼吸器内科
2011年 今給黎総合病院呼吸器内科

<所属学会>

日本内科学会 日本呼吸器学会
日本結核病学会 日本感染症学会
日本神経学会

<資格修得>

日本内科学会認定医 (神経内専門医)

窪田 幸司

2002年 鹿児島大学病院第3内科入局
2004年 肝属郡医師会立病院呼吸器内科
2005年 国立病院機構 南九州病院 呼吸器内科
2007年 鹿児島大学病院呼吸器
ストレスケアセンター
2009年 今給黎総合病院呼吸器内科

<所属学会>

日本内科学会 日本呼吸器学会
日本アレルギー学会 日本呼吸器内視鏡学会

<取得資格>

日本内科学会認定内科医

田上 あさ子

2004年 鹿児島大学初期研修医
2006年 鹿児島大学病院後期研修医
2007年 鹿児島市立病院内科
2008年 鹿児島医師会病院 呼吸器内科
2009年 川内市民病院呼吸器内科
2010年 国立病院機構 南九州病院 呼吸器内科
2009年10月 今給黎総合病院呼吸器内科 現職

<所属学会>

日本内科学会 日本呼吸器学会
日本アレルギー学会

<取得資格>

日本内科学会認定医 がん治療認定医

【学会活動業績】

【論文】

父娘感染が示唆された RFP、SM 耐性肺結核の一例
鹿児島医報
岩川 純, 隈元朋宏, 本川郁代, 久保田真吾

【講演会】

感染症

PK/PD を考慮した市中肺炎の治療
谷山生協病院 2007年9月26日
岩川 純

PK/PD を考慮した市中肺炎の治療
串木野医師会 2008年11月18日
岩川 純

ガイドラインを踏まえた市中肺炎の診療の実際
クラビット発売記念特別講演 2009年8月7日
岩川 純

PK/PD を考慮した抗菌薬の適正使用
鹿児島市薬剤師会 2009年7月7日
岩川 純

今給黎総合病院感染防御委員会の取り組み多剤耐性緑膿菌について
ゾシン発売記念講演会 2010年3月18日
岩川 純

気管支喘息 COPD

成人喘息のガイドラインと吸入ステロイド薬の位置づけ
第119回 鹿児島市薬剤師会 西区勉強会
2008年7月16日
岩川 純

病態に基づいた最適な喘息治療とは？
鹿児島気管支喘息研究会 ミニレクチャー
2009年4月14日
岩川 純

気管支喘息の診断と治療のポイント
鹿児島市東地区薬剤師会 2010年2月23日
岩川 純

気管支喘息の診断と治療のポイント
出水郡医師会内科医会 2010年3月2日
岩川 純

気管支喘息の診断と治療のポイント
大隅地区4医師会 2010年4月22日
岩川 純

【学会発表】

芳香剤誤嚥による呼吸不全を起し救命し得なかった1例
第59回日本呼吸器学会九州地方会 別府市
2007年11月22日
今給黎総合病院呼吸器科
○隈元 朋洋 本川 郁代 久保田 真吾 岩川 純
鹿児島大学病院呼吸器ストレスケアセンター
松山 航 東元 一晃 有村 公良

リネゾリドが有効であった MRSA による中心静脈カテーテル関連敗血症の1例
第279回日本内科学会九州地方会 長崎市
2007年11月18日
今給黎総合病院呼吸器科
○隈元 朋洋 本川 郁代 久保田 真吾 岩川 純
鹿児島大学病院呼吸器ストレスケアセンター
松山 航 東元 一晃 有村 公良

Voriconazole により画像所見が改善したアレルギー性気管支肺アスペルギルス症の一例

第61回日本呼吸器学会 九州地方会 宜野湾市
2008年11月6日
今給黎総合病院 呼吸器内科
○内田 章文 ○岩川 純 上川路 和人
野間 聖 久保田 真吾
鹿児島市立病院 内科
末次 隆行 町田 健太郎

明らかな免疫異常がなく発症した肺ノカルジア症の1例

第63回日本呼吸器学会 九州地方会 北九州市
2009年11月26日
○上川路 和人 岩川 純 内田 章文
野間 聖 久保田 真吾

肺癌術後に骨髄異形成症候群を発症し、その後併発したびまん性肺疾患の一例

第65回日本呼吸器病学会 九州地方会 熊本市
2010年11月12日
○久保田 真吾 俣木 浩子 窪田 幸司
岩川 純

Achromobacter (Alcaligenes) xylosoxidans による肺炎を繰り返した1症例

第65回日本呼吸器病学会 九州地方会 熊本市
2010年11月12日
○窪田 幸司 俣木 浩子 久保田 真吾
岩川 純

【研究会発表】

吸気流入速測定による吸入ステロイド薬剤形の検討

第6回鹿児島喘息研究会
○久保田 真吾 岩川 純
鹿児島大学病院 呼吸器内科 東元一晃

ゲフィチニブが著効した喫煙者肺線がんの1例

鹿児島肺がん研究会
○岩川 純 隈元朋宏 本川郁代 久保田真吾

肺アスペルギルス症に対する新規抗真菌薬の使用経験

○岩川 純 久保田真吾 野間 聖 内田章文

当院で経験したカルチノイドの症例

第51回鹿児島肺がん研究会
城山観光ホテル 鹿児島市 2010年10月8日
今給黎総合病院 呼吸器内科
久保田 真吾 田上 あさ子 窪田 幸司
岩川 純
呼吸器外科
巻幡 聰 酒瀬川 浩一 米田 敏

神経内科

神経内科部長 丸山 芳一

【特徴】

本年度は神経内科の外的環境が大きく様変わりした。Rootsである鹿児島大学「第三内科」が「神経内科」となり、長い教授不在の後に新しい教授が就任されたのである。その高嶋教授はお若いころ、当科にて研修をされたこともある。私たち（あるいは私だけ？）のモットーは「神経内科医である前に内科医」である。「内科医の前に一人の人間」というのが必要なことは言うまでもないが、大学が第三内科から神経内科と標榜が変わったことで私たちもデパート（ニシムタ？）から専門店に変われるかという問題である。神経内科みんなまで考えてゆきたい。

今年度の診療実績であるが昨年の入院患者数402名から427名（平成22年1月1日～12月31日）に増えた。スタッフは増えていないが患者が増えたことは多少の誇りである。DPCと出来高の差益でも多くの収益をあげた。入院期間に配慮したからである。そしてMSW原口さんが迅速に動いてくれたからである。

対外的には丸山は各種研究会の世話人、臨床研修医対応、長堂は鹿児島大学の非常勤講師として大学講義、大学病院専門外来、ポリクリ学生指導、看護学校の授業などを行っている。神経内科兼任の甲斐、林は各種学会で口演発表し、論文も複数が印刷中である。丸山は血液凝固・神経関連の講演を行った。

今年度も神経内科を中心とする混合チームが院内卓球大会で連続優勝した（鬼コーチの荒田以下、昇院長、長堂、福田、原口、腰痛の丸山）。実力と作戦の総和であるが打ち上げのエネルギーまでは注ぎ込んでいないことがわれわれの余裕（得意技）である。

病棟は昨年度と同じく別館2階南病棟42床、神経内科と皮膚科の混合病棟である。皮膚科の児浦部長、吉福先生には時間を問わず的確なご指導をいただき、一同感謝に尽きない。上ノ町師長以下28名の精鋭部隊で定時帰宅を夢見ながら激務をこなしている。外来は有能で気配りのできる郡山さんに加えて脳外科担当の平川さんの応援がある。大学からは専門外来にご助力をいただいている。

本年度末をもって荒田が大学に後進指導のために移動することになった。必要とされての帰局である。涙を吞んで見送ることにした。当人も去りがたいようである。去りがたい人は必ず舞い戻ってくる。大歓迎したい。

【スタッフ】

丸山芳一 部長

医学博士、日本神経内科学会専門医、日本内科学会認定医、日本神経学会評議員、鹿児島大学臨床教授 愛媛大学医学部卒

長堂竜維 部長

医学博士、日本神経内科学会専門医、日本内科学会認定医、鹿児島大学医学部非常勤講師 鹿児島大学医学部卒

荒田 仁 医師

医学博士、日本神経内科学会専門医、日本内科学会認定医、鹿児島大学医学部卒

藤崎瑛隆 研修医

研修医（産業医大卒）平成23年1月～3月研修

非常勤医師

有村由美子医師（電気生理学検査）

丸山征郎医師（血管病）

有村公良医師（頭痛外来）

橋口照人医師（神経内科、糖尿病）

脇田政之医師（頸部血管超音波検査）

池田賢一医師（神経内科）

徳永章子医師（神経内科）

【診療状況】

【外来患者】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	135	128	110	119	102	104	111	101	104	100	104	100	1,318
再診	974	936	978	955	895	902	947	970	1,002	833	882	949	11,223
合計	1,109	1,064	1,088	1,074	997	1,006	1,058	1,071	1,106	933	986	1,049	12,541
1日平均初診患者数	5	6	4	5	4	4	4	4	4	4	5	4	4
1日平均再診患者数	39	41	38	37	34	38	36	40	40	36	38	37	38
1日平均患者数	44	46	42	41	38	42	41	45	44	41	43	40	42
診療実日数	25	23	26	26	26	24	26	24	25	23	23	26	297

【入院患者】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入院	38	36	40	33	41	23	34	27	33	32	32	38	33.9
退院	41	32	39	37	44	30	25	25	32	30	29	37	33.4
在院	1,030	964	914	937	880	756	835	835	874	1,058	962	1,141	932.2
平均病床数	34.3	31.1	30.5	30.2	28.4	25.2	26.9	27.8	28.2	34.1	34.4	36.8	30.6
平均在院日数	26.1	28.4	23.1	26.8	20.7	28.5	28.3	32.1	26.9	34.1	31.5	30.4	27.7

【入院患者内訳】（平成22年4月～平成23年3月）

外転神経麻痺	2	一過性脳虚血発作	3	低k性四肢麻痺	7
感覚性多発神経炎	2	くも膜下出血	2	低Na血症	1
キーガンタイプ神経根障害	1	高血圧性脳症	1	低栄養	1
動眼神経麻痺	1	硬膜下血腫	1	低血糖	2
帯状疱疹後神経痛	1	正常圧水頭症	4	糖尿病	4
大腿皮神経痛	1	脊髄梗塞	1	熱中症	3
多発神経炎	2	脳血栓（アテローム血栓性）	81	薬物中毒	1
糖尿病性神経筋障害	2	脳塞栓	16	脱水	1
トローザハント症候群	2	脳出血	19	自殺未遂	1
末梢性顔面神経麻痺	5	未破裂脳動脈瘤	1	高血糖昏睡	1
腕神経障害	1			肝障害	1
				アダムストークス発作	1
				うっ血性心不全	1

FISHER症候群	4
RS3PE症候群	3
関節炎	1
ギランバレー症候群	6
血管炎症候群	2
抗リン脂質症候群	2
シェグレン症候群	1
全身性エリテマトーデス	3
リウマチ性多発筋痛症	7
ループス脊髄炎	1
モラーレ髄膜炎	2
原田氏病	1
多発性硬化症	19
多巣性多発神経炎	1
慢性炎症性脱髄性多発神経炎	2
シャーグ・ストラウス症候群	1
亜急性散在性脳脊髄炎	1

シャイドレージャ症候群	1
パーキンソン病	27
筋萎縮性側索硬化症	12
進行性核上性麻痺	1
多系統萎縮症	3
線状体黒質変性症	1
球麻痺	3
皮質ミオクローヌス	1
ジストニア	1

鼻出血	1
AIDS	1
血友病B	1
悪性リンパ腫	1
貧血	2
特発性血小板減少性紫斑病	1
播種性血管内凝固症候群	12
カサバツハメリット症候群	1

バセドウ眼症	1
黄紋筋融解	1
多発筋炎	1
封入体筋炎	2
ミトコンドリア脳筋症	3
ミオパチー	2

咽頭炎	1
ウイルス感染	1
下肢リンパ管炎	1
頸部リンパ節炎	1
髄膜炎	12
胆嚢炎	1
尿路感染症	3
脳炎	3
肺炎/気管支炎	18
敗血症	3
蜂か織炎	1
不明熱	3
ヘルペス髄膜炎/脳炎	4

後縦靭帯骨化症	1
瘻性麻痺	1
頸椎症	1
脊髄炎	4
脊柱管狭窄	1
転移性脊椎腫瘍	1

悪性症候群	1
めまい	14
特発性浮腫	2
突発性難聴	1
排尿後失神	1
廃用症候群	1
症候性てんかん	15
心因反応	1
窒息	2
スティフパーソン症候群	1
血胸	1
心不全	1
ヒステリー	3
頭痛	1
せん妄	1
蘇生後脳症	2
うつ病	1
脳幹型RPLE症候群	1

【死亡症例】(14名)

死因	性別	年齢
DIC、敗血症	男	86
DM筋萎縮	女	83
RS3PE、心不全	女	87
外傷性SAH	男	66
くも膜下出血	女	89
呼吸不全	女	78
低Kミオパチー 腎不全	女	51
低栄養	女	75
脳梗塞	女	81
脳梗塞	男	91
パーキンソン病 老衰	男	86
敗血症	女	78
敗血症	男	61
敗血症ショック	女	85

【対外活動】

脳血管疾患の再発に対する高脂血症薬HMGCoA阻害薬の予防に関する研究
丸山芳一（研究協力）
主任研究者 松元昌泰 広島大学脳神経内科

脳卒中既往患者を対象とした厳格降圧療法の2次予防効果を検討する大規模臨床研究
丸山芳一（研究協力）
研究代表者 島田和幸 自治医大循環器内科

【業績報告】

【論文】

難治性きつ逆・嘔吐で発症し、意識障害、呼吸障害、眼球運動障害を呈し、広範な脳幹病変を認めた抗アクアポリン4抗体関連疾患の1例
臨床神経学 Vol. 51(2011), No. 4, 255-260
甲斐 太、荒田 仁、林 茂昭、長堂竜維、丸山芳一

軽微な外傷による頸椎動脈解離にて発症したと考えられたAICA症候群の1例
脳卒中 Vol. 33 (2011), No. 4, 419-423
甲斐 太、荒田 仁、林 茂昭、長堂 竜維、新里 友美、西澤 輝彦、丸山 芳一

【口演発表】

脳底動脈にhyperdens signとFLAIR vascular hyperintensityを認めたことより閉塞を疑い、アルテプララーゼ静注療法を施行した1例
アルテプララーゼ研究会 城山観光ホテル 鹿児島 2010年7月2日
林 茂昭、甲斐 太、荒田 仁、長堂竜維、丸山芳一

難治性きつ逆・嘔吐で発症し、意識障害、呼吸障害、眼球運動障害を呈し、広範な脳幹病変を認めた抗アクアポリン4抗体関連疾患の1例
第190回日本神経学会九州地方会 大分大学 2010年6月5日
甲斐 太、荒田 仁、林 茂昭、長堂竜維、丸山芳一

抗グルタミン酸受容体抗体が陽性であった可逆性脳梁膨大部病変を伴った脳炎の2例
第192回 日本神経学会九州地方会 鹿児島大学 2010年12月11日
甲斐 太、荒田 仁、林 茂昭、長堂竜維、丸山芳一

トラゾドン塩酸塩が原因と考えられ可逆性の脳血管連祝を認めなかった雷鳴頭痛の1例
第193回日本神経学会九州地方会 福岡大学 2011年3月26日
甲斐 太、荒田 仁、林 茂昭、長堂竜維、丸山芳一、有村公良

軽微な外傷による椎骨動脈解離にて発症したと考えられたAICA症候群の1例
第29回The Mt. Fuji Workshop on CVD 福岡 2010年8月28日
甲斐 太、荒田 仁、林 茂昭、長堂竜維、新里友美、西澤輝彦、丸山芳一

【講演】

トロンピンと血栓
南九州Stroke Summit ホテルニューオオタニ熊本 2011年2月15日
丸山芳一

抗凝固・抗血小板剤療法は今後どう変わるか
指宿内科医会学術講演会 指宿いわさきホテル 2011年2月18日
丸山芳一

抗血小板剤の作用メカニズムを知り、使い分ける
Cityあいらセミナー 城山観光ホテル 2011年6月15日
丸山芳一

脳卒中はこうすれば防げる
鹿児島脳卒中市民講演 北部保健センター 2011年2月24日
丸山芳一

座長

「凝固の制御」
第33回日本止血血栓学会 鹿児島市 城山観光ホテル 2010年4月24日
丸山芳一

鹿児島Thrombomodulin Forum
鹿児島市 鹿児島東急ホテル 2010年5月28日
丸山芳一

外科 (消化器・乳腺・甲状腺・小児・肛門)

外科部長 濱之上 雅博

今年度、外科の人員構成は、下記のとおりであり3年間頑張ってくれた野間秀歳先生が転出され、7月より柳田茂寛先生がアメリカ留学より当科に赴任され、濱之上も外科にお世話になることとなりました。当科も人員の移動とともに赴任された先生の様々な要求にこたえるべく消化器外科を中心に内分泌外科まで担当範囲とさせてもらっています。この中で近年の鏡視下手術の進展・先進医療に遅れないよう大学との連携にも勤めています。日本消化器外科学会専門医制度研修施設にもなり近年の全国手術症例登録システム (NCD) にも参加し様々な専門医制度への対応に努めています。また内分泌・消化器・肝胆膵領域の手術の充実を麻酔科・消化器内科・放射線科・病理科との連携で勤めていくよう毎週カンファレンスを行っています。近年の高齢者に対する癌の治療もおおきな問題で手術・術後化学療法から緩和治療への対応が求められ他科の先生との連携・paramedical stuffとの協力なくしては治療が成立しないと考えています。今後も外科としての仕事を明確にしつつ他科との協力を重んじ治療をすすめたいと思います。

【人事】

勤務者

<医師>

継続 . 今給察和典、牟禮 洋、宮園 太志、野口 智弘

(転出)

野間 秀歳 : 平成 22 年 6 月まで

(転入)

柳田 茂寛 : 平成 22 年 7 月から
濱之上 雅博 : 平成 22 年 7 月から

<診療アシスタント>

手塚 あゆみ

<看護師>

松田めぐみ
大野ひとみ

【診療状況】

<外来患者状況>

平成22年度の外来患者総数(延べ)は5,025名であった。
その内訳は初診患者:627名

そのうち151名は時間外や休日、深夜の患者である。
再診患者:4,398名

<入院患者> 555名/年

<手術症例>

手術総件数: 308件

麻酔別件数: 全身麻酔	213件
腰椎・硬膜外麻酔	62件
局所麻酔	33件

緊急手術: 85件

鏡視下手術 97件

【主要疾患別手術件数】

大腸癌・直腸癌	48件
胃癌	10件
肝癌(原発性・転移性)	8件
膵頭十二指腸切除	3件
胆石・胆嚢炎など	36件
急性虫垂炎	31件
鼠径・大腿ヘルニア	59件
乳癌	2件

【学会・研究会発表】

大腸癌治療の現状

第1回 癌治療病診連携 講演会
今給黎総合病院 2010年10月16日
濱之上 雅博

腹腔鏡にて根治手術を施行したMorgagni孔ヘルニアの1例

鹿児島市外科医会 春季例会 鹿児島市
2011年3月15日
柳田 茂寛、野口 智弘、宮園 太志、
鶴木 泰自、濱之上 雅博、巻幡 聡、米田 敏

小児絞扼性イレウスにて右半結腸切除を要した症例

鹿児島臨床外科医会 鹿児島市
2011年3月26日
野口 智弘、柳田 茂寛、宮園 太志、
鶴木 泰自、濱之上 雅博

【座長】

鹿児島肝癌研究会 鹿児島市 2010年5月22日
濱之上 雅博

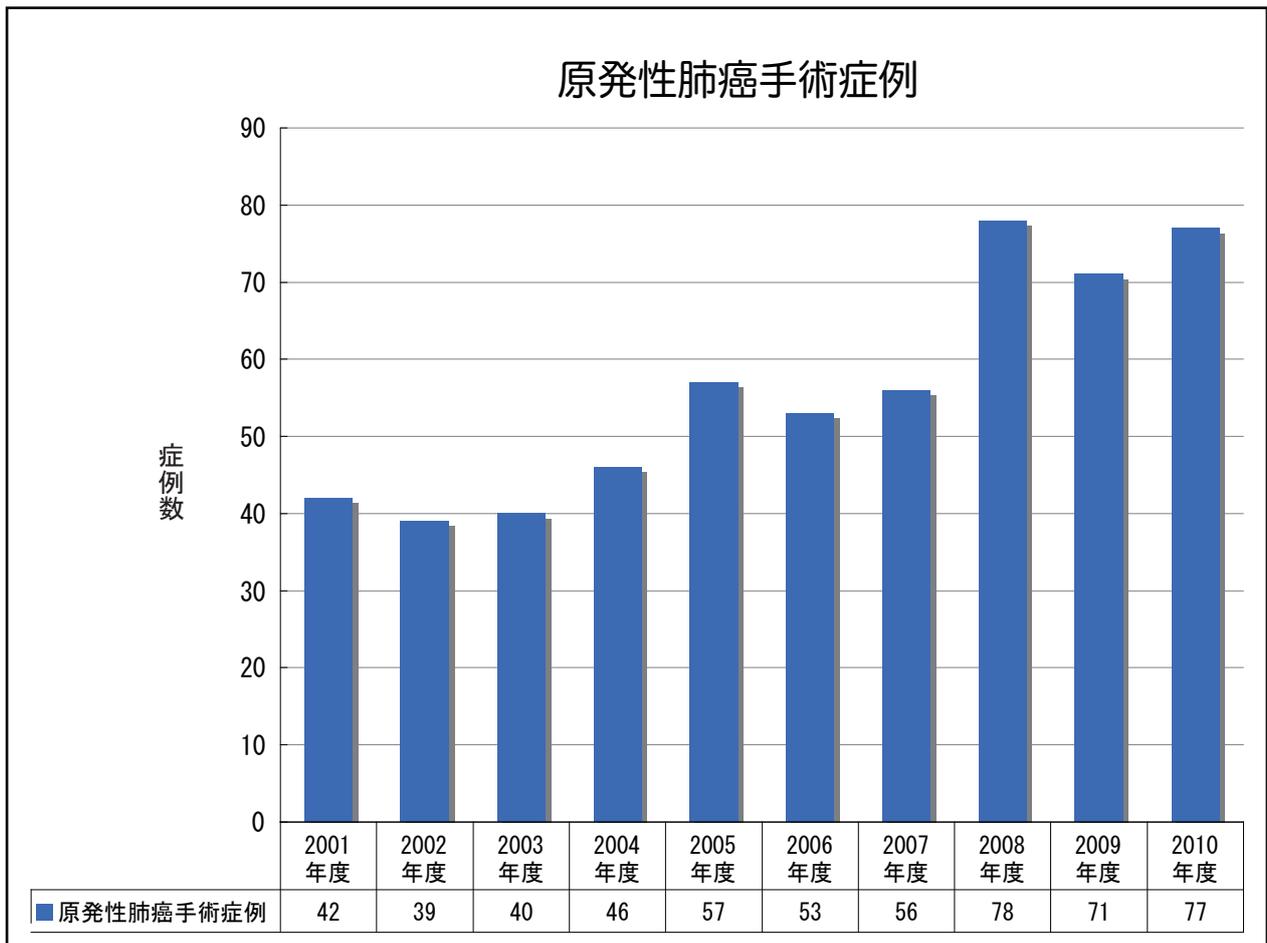
呼吸器外科

呼吸器外科部長 米田 敏

日本外科学会認定医・専門医・指導医 日本呼吸器外科学会専門医・指導医
 日本呼吸器外科専門医認定機構専門医 日本胸部外科学会認定医・正会員
 日本呼吸器外科学会評議員 九州外科学会評議員
 日本胸部外科学会九州地方会評議員 日本肺癌学会九州支部会評議員
 鹿児島呼吸器外科懇話会世話人 七隈癌治療フォーラム世話人

今年度は、2010年12月に鹿児島大学呼吸器外科、酒瀬川浩一先生の異動により、1月より巻幡聰先生と1人減員の2人体制となりました。それに伴い、呼吸器内科の諸先生に気管支鏡などの術前検査や術後化学療法などをお願いすることとなり、多大なご負担をおかけしており、大変申し訳なく、また非常に感謝しております。肺癌症例は年々増加しており、呼吸器外科医を育成することが急務であると、痛切に感じています。

さて、今年度の手術件数は154例で、肺癌77例、転移性肺腫瘍2例、縦隔腫瘍5例、胸膜中皮腫3例、肺気腫5例、自然気胸・血気胸23例、局所性多汗症1例、膿胸10例、良性肺腫瘍6例などでした。肺癌の年次推移を、さらに本年度の業績を以下に示します。



【2010年度 呼吸器外科 業績】

学会発表	学会名	場所、月日、年	演者
腺癌と非定型カルチノイドの混在が見られた混合型腫瘍の一例	第27回日本呼吸器外科学会総会、ポスター	仙台、5月12-14日、2010年	酒瀬川浩一、巻幡 聡、米田敏
肺癌術後再発を繰り返すも化学療法・放射線治療にて長期生存が得られている一例	第50回肺癌学会九州地方会	福岡、7月、2010年	米田 敏、巻幡 聡、酒瀬川浩一、白石武史、岩崎昭憲
肺癌の定位放射線照射後再発に対する肺葉切除の1例	第43回日本胸部外科学会九州地方会	福岡、7月22-23日、2010年	巻幡 聡、米田 敏、酒瀬川浩一、白石武史、岩崎昭憲

整形外科・リハビリテーション科

整形外科部長 松永俊二

整形外科の平成22年度の活動状況を報告します。平成22年度は当院整形外科に長年貢献されてこられた鬼丸先生が御開業に伴い退職され外来および病棟の診療がかなり変わりました。整形外科の手術総数は1,043例と前年並みであったが鬼丸先生の退職により関節手術がやや減少しました。高齢化に伴い骨粗鬆症関連の骨折手術が増加しています。クリニックの患者数は平均約120名/日であり昨年度と変化ありませんでした。入院患者総数は1,151名で平均稼働率は115.6%で常に満床状態でした。学術活動は日本の主要学会はもちろん海外の学会でも発表を行い今給黎総合病院の学術的評価を高めることができました。整形外科は日本整形外科学会認定の臨床専門研修施設として臨床実地教育にも力を注いでいます。また地域活動としても地域住民を対象とした公開講座なども実施し公益法人としての地域医療に貢献しています。本院の整形外科には日本整形外科学会専門医はもちろんですが脊椎脊髄外科手術指導医、リウマチ専門医、リハビリ専門医、スポーツ専門医などが常勤医として勤務し整形外科関連のあらゆる疾患に対応できる体制を整えています。また公的業務として厚生労働省難治性疾患脊柱靭帯骨化症調査研究班の班員活動も行っており厚生労働省からも高く評価されています。

【スタッフ紹介】〈常勤医〉9名

今給黎尚典（理事長）	日本整形外科学会 専門医	
松永俊二（整形外科部長）	鹿児島大学医学部臨床教授 日本整形外科学会 専門医 日本整形外科学会 認定スポーツ医 日本整形外科学会 認定リウマチ医 日本整形外科学会 認定脊髄医 日本リウマチ学会専門医、指導医 日本リハビリテーション医学会 専門医 日本脊椎脊髄病学会 脊椎脊髄外科手術指導医	
古賀公明（整形外科部長）	鹿児島大学医学部臨床准教授 日本整形外科学会 専門医 日本整形外科学会 脊椎脊髄病医 日本脊椎脊髄病学会 指導医	
石田育男（整形外科部長）	日本整形外科学会 専門医	
東福勝宏（専門医）	堀川良治（専門医）	八尋雄平（研修医）
坂元裕一郎（研修医）	筒井完明（研修医）	

【人事異動】

退職 9名

香川陽介	平成22年3月31日退職	(鹿児島大学へ異動)
内山田桜	平成22年3月31日退職	(鹿児島大学へ異動)
宮口文宏	平成22年3月31日入職	(出水総合医療センターへ異動)
鬼丸高茂	平成22年7月31日退職	(開業)
中條正瑛	平成22年10月31日退職	(鹿児島赤十字病院へ異動)
中村俊介	平成22年12月31日退職	(鹿児島大学へ異動)
八尋雄平	平成23年3月31日退職	(鹿児島市立病院へ異動)
坂元裕一郎	平成23年3月31日退職	(鹿児島大学へ異動)
筒井完明	平成23年3月31日退職	(昭和大横浜北部病院へ異動)

入職 6名

東福勝宏 平成22年4月1日入職
八尋雄平 平成22年4月1日入職
中條正瑛 平成22年4月1日入職
坂元裕一郎 平成22年10月1日入職
筒井宏明 平成22年10月1日入職
堀川良治 平成23年1月1日入職

【地域貢献】

出水郡医師会教育講演 平成22年6月18日 於出水郡医師会立第二病院
『高齢者腰痛の病態と治療－骨粗鬆症を中心として』講師 松永俊二

上町地区整形外科医と歯科医の連携のためのセミナー 平成22年3月27日 於鹿児島県民交流センター
講師 整形外科 松永俊二、歯科口腔外科 吉田雅司

【症例検討会】

レ線カンファレンス 毎日
鹿児島脊椎症例検討会 1回/月

【診療実績】

昭和会クリニック

外来総数 43,390名 新患 4,638名 1日平均 118.9名

今給黎総合病院

外来総数 1,759名 新患 458名 1日平均 4.8名
入院総数 1,151名 平均稼働率 115.6% 平均在院日数 36.1日
手術総数 1,043件 (時間外緊急手術268件)

【手術内訳】（平成22年4月～平成23年3月）

<u>脊椎（161件）</u>		人工膝関節置換術	30
頸椎椎弓形成術	24	膝前十字靭帯再建術	5
頸椎後方固定術	10	脛骨骨切り術	1
頸椎前方固定術	13	足関節固定術	2
胸椎後方固定術	14	胸鎖関節固定術	1
胸椎椎弓切除術	1	<u>腱・神経手術（24件）</u>	
胸椎前方固定術	2	アキレス腱縫合術	5
腰椎後方固定術	20	腱縫合術(手)	6
腰椎開窓術	9	腱鞘切開術	5
腰椎前方固定	10	手根管開放術	7
腰椎椎間板ヘルニア摘出術	14	筋切術	1
経皮的髄核摘出術	5	<u>腫瘍手術（3件）</u>	
椎間板搔爬術	8	骨軟部腫瘍手術	3
体外式脊椎固定術 （ハローベスト装着術）	11	<u>抜釘術（121件）</u>	
脊髄腫瘍摘出術	1	<u>その他（51件）</u>	
仙腸関節固定術	5	開放創デブリードマン・創傷処理	39
CT下生検	14	創外固定術	8
<u>骨折（362件）</u>		経皮的鋼線固定術	1
鎖骨骨折手術	21	減張切開術	1
上腕骨近位部骨折手術	12	筋皮弁形成術	2
上腕骨外顆骨折手術	9	<u>感染症手術（18件）</u>	
上腕骨顆上骨折(含経皮的ピンニング)	13	感染持続洗浄術	9
上腕骨骨幹部骨折手術	8	骨髓炎手術	9
肘関節内骨折手術	4	<u>救急外来手術（145件）</u>	
肘頭骨折手術	5	創傷処理術	112
橈骨遠位端骨折手術	33	断端形成術	1
前腕骨骨折手術	8	軟部腫瘍摘出術	2
手指骨折手術	32	腱鞘切開術	8
骨盤骨折手術	3	腱縫合術	2
大腿骨頸部骨折手術	124	抜釘術	10
大腿骨骨幹部骨折手術	3	経皮的鋼線刺入骨折固定術	10
大腿骨顆上骨折	7		
膝蓋骨骨折手術	10		
脛骨近位部骨折手術	10		
下腿骨骨折手術	31		
足関節脱臼骨折手術	19		
踵骨骨折手術	3		
足趾骨折手術	7		
<u>切断術（16件）</u>			
下肢	14		
上肢	2		
<u>関節手術（142件）</u>			
肩関節脱臼手術	1		
肩鎖関節脱臼手術	1		
肩腱板手術	6		
人工肘関節置換術	1		
肘関節形成術	1		
人工股関節再置換術	2		
股関節脱臼観血的整復術	7		
人工股関節置換術	18		
人工骨頭置換術	53		
大腿骨回転骨切術	1		
骨盤骨切り術	5		
膝関節視鏡下滑膜切除術	2		
膝関節視鏡下半月板切除術	5		

【2010 年度業績】

【論文発表】

一般健常者における日本整形外科学会頸部脊髄症評価質問票調査 (JOACMEQ) -患者評価の基準として-

脊椎脊髄ジャーナル23 : 89-193, 2010
松永俊二、古賀公明、小宮節郎

Editorial 温故知新

Journal of Spine Research 1 : 129-130, 2010
松永俊二

シンポジウム：脊椎脊髄手術の安全対策 当院における高齢者脊椎脊髄手術の手術部感染予防対策-NST導入とその効果-

Journal Spine Research 1, S414, 2010
松永俊二、古賀公明、宮口文宏、中村俊介、小宮節郎

シンポジウム：生体物理刺激による外傷治癒促進パルス電磁場刺激による骨形成促進について

日本整形外科学会雑誌 84, S12, 2010
松永俊二、小宮節郎

シンポジウム：脊柱頸椎後縦靭帯骨化症手術治療における課題 頸椎頸椎後縦靭帯骨化患者の神経症状発現予測に関する多施設研究

日本整形外科学会雑誌 84, S154, 2010
松永俊二、中村耕三、戸山芳昭、小宮節郎

高齢者社会における整形外科手術の現況と研修医教育の重要性

リハビリテーション医学 47, S183, 2010
松永俊二、小宮節郎

多施設研究・頸椎後縦靭帯骨化症患者における神経症状発現予測に関する多施設研究-前向き再調査の中間報告-平成21年度総括・分担研究報告書

平成21年度総括・分担研究報告書
37-40, 2010
松永俊二、戸山芳昭、小宮節郎

頸部神経根症に対する後方進入内視鏡椎間孔拡大術の治療経験

JSR 1 : 1198-1199, 2010
宮口文宏、古賀公明、松永俊二、今給黎尚典、田邊 史、石堂康弘、山元拓哉、井尻幸成、米 和徳、小宮節郎、富永博之、武富栄二、鮫島浩司、川内義久、東郷泰久、小倉雅、尾辻正樹

Preventing surgical site infection in older patients after spine surgery: Application and efficacy of nutrition support team (NST)

European Spine Journal 19 : 249-250, 2010
Matsunaga S, Koga H, Miyaguchi F, Komiya S

急性型病院における後期高齢者整形外科手術の現況-臨床研修医の立場から-

整形外科と災害外科 59 : 419-423, 2010
内山田 桜、松永俊二、中島隆之、中村俊介、宮口文宏、古賀公明、今給黎尚典、小宮節郎

高齢者の腰痛疾患の病態と治療

出水郡医師会報17:18-21, 2010
松永俊二

【学会発表】

ラジオ波焼灼法による軟部肉腫肺転移の治療

第37回日本生体電気刺激研究会 東京医科大学臨床講堂 東京 2010年3月6日
永野聡、石堂康弘、松永俊二、小宮節郎

当院における高齢者脊椎脊髄手術の手術部感染予防対策-NST導入とその効果-

第39回日本脊椎脊髄病学会 高知県立県民文化ホール 高知市 2010年4月23日
松永俊二、古賀公明、宮口文宏、中村俊介、小宮節郎

頸椎後縦靭帯骨化症患者の神経症状発現予測に関する多施設研究

第83回日本整形外科学会学術総会 東京国際フォーラム 東京 2010年5月28日
松永俊二、中村耕三、戸山芳昭、小宮節郎

パルス電磁場刺激による骨形成促進について

第83回日本整形外科学会学術総会 東京国際フォーラム 東京 2010年5月27日
松永俊二、小宮節郎

Radiographic risk factors for spinal cord injury in patients with ossification of the posterior longitudinal ligament of the cervical spine.

1st annual meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific section Kobe, Japan 2010/4/25
S. Matsunaga, H. Koga, F. Miyauchi, S. Komiya

頸椎頸椎後縦靭帯骨化患者の神経症状発現予測に関する多施設前向き研究

厚生労働省難治性疾患克服研究事業脊柱靭帯骨化症に関する調査研究班
平成22年度第1回班会議 慶應義塾大学病院 東京 2010年5月15日
松永俊二、小宮節郎

高齢者社会における整形外科手術の現況と研修医教育の重要性

第47回日本リハビリテーション医学会 サンロイヤルホテル 鹿児島市 2010年5月20日
松永俊二、小宮節郎

Preventing surgical site infection in older patients after spine surgery

Application and efficacy of nutrition support team (NST) Euro Spine 2010 Reed Messe Wien Exhibition & Congress center Vienna Austria 2010/9/15
Matsunaga S, Koga H, Miyauchi F, Komiya S

Etiology, natural history, measurement tool & diagnosis of OPLL

45th Annual Meeting of Scoliosis Research Society 京都国際会議場 京都 2010/9/21
Matsunaga S

RA症例における周術期管理の変化

第40回九州リウマチ学会 かがしま県民交流センター 鹿児島市 2010年9月4日
土持兼之、砂原伸彦、廣田仁志、恒吉康弘、有島善也、秋元正樹、大坪秀雄、武富栄二、井尻幸成、松永俊二、小宮節郎、松田剛正

頚椎頸椎後縦靭帯骨化における神経症状発現予測に関する多施設研究-最終報告-

厚生労働省難治性疾患克服研究事業脊柱靭帯骨化症に関する調査研究班 平成22年度第2回班会議 慶應義塾大学病院 東京 2010年11月6日
松永俊二、小宮節郎、井尻幸成、戸山芳昭

皮膚欠損を生じた症例に陰圧閉鎖療法を併用した治療経験

第120回西日本整形・災害外科学会 佐賀市文化会館佐賀 2010年11月13日
八尋雄平、中村俊介、古賀公明、東福勝宏、松永俊二

頚椎頸椎後縦靭帯骨化が自然消失したと思われる一例

第74回西日本脊椎研究会 大正・富山製薬福岡支店 2010年11月12日
松永俊二、酒匂 崇、武富栄二

【講演】

頚椎RAの自然経過

第4回NSG頚椎セミナー 名古屋大学医学部講堂2010年2月13日
松永俊二

高齢者腰痛の病態と治療-骨粗鬆症を中心として-

出水郡医師会教育研修講演 出水郡医師会立第二病院 2010年6月18日
松永俊二

骨粗鬆症の最近の話題について

大正・富山薬品研修講演会 ブルーウェーブ 鹿児島、鹿児島市 2010年11月17日
松永俊二

形成外科

形成外科部長 高木 信介

【当科の歴史】

1983年(昭和58年)、当院に鹿児島県で初めて形成外科が設立され、初代部長に宇田川晃一先生(千葉県立こども病院)が赴任されました。以来、昭和大学形成外科の関連施設として、鹿児島県の医療に携わってまいりました。

【診療内容】

形成外科とは

先天性および後天性の身体外表の醜状(形、色の異常)を対象とし、これを外科手技により機能はもとより形態(美容)解剖学的に正常(美形)にすることを手技とし、その目的は個人を社会に適応させるものである(鬼塚、1964)と定義されています。

形成外科は、体表を治す外科であり、他の外科には無い特徴があります。そして、日常に戻れるようにしてあげることが最大の目的としております。体表に関しては、生まれつきの疾患(口唇裂、口蓋裂、耳の奇形、手や足の指の奇形、あざ)や、後天性の疾患(腫瘍、外傷等)を取り扱っております。とくに生まれつきの疾患である口唇口蓋裂に関しては、平成23年4月より口唇口蓋裂診療班が発足し、集学的な治療が行えるようになりました。また、体表だけではなく神経、血管を顕微鏡でつなぎ合わせる機能的な再建(指の切断、重要な神経の断裂)、顔面骨折や悪性腫瘍切除後の欠損等の深部の治療も積極的に行っております。

【スタッフ紹介】

高木 信介 (たかぎ しんすけ)

2002年 昭和大学医学部卒業

2002年 昭和大学形成外科学教室入局
昭和大学病院、毛山病院(高知)、
荏原病院(東京)、藤枝市立総合病院(静岡)、
埼玉県立小児医療センター、
昭和大学横浜市北部病院勤務

2008年～今給黎総合病院形成外科勤務

2010年4月～現職

日本形成外科学会専門医
医学博士

所属学会

日本形成外科学会、国際形成外科学会
日本頭蓋顎顔面外科学会、日本口蓋裂学会
日本美容外科学会、日本美容医療協会
日本褥瘡学会、日本臨床皮膚外科学会、

日本マイクロサージャリー学会
日本血管腫・血管奇形研究会
日本創傷外科学会

加治佐 卓也 (かじさ たくや)

2003年 防衛医科大学校医学科卒業

2006年8月

昭和大学形成外科学教室入局
千葉大学病院、日立総合病院(茨城)、
鶴岡市立庄内病院(山形)勤務

2010年4月～今給黎総合病院勤務

日本形成外科学会専門医

所属学会

日本形成外科学会、国際形成外科学会
日本口蓋裂学会、日本再生医療学会
日本創傷外科学会、日本褥瘡学会

有村 和子 (ありむら かずこ)

2005年 鹿児島大学医学部卒業

2005年4月～2007年3月 臨床研修医

2007年4月 横浜市立大学形成外科学教室入局

福岡大学病院
横浜市立大学付属医療センター
藤沢湘南台病院

Boston Children's Hospital

神奈川県立こども医療センター勤務

2011年6月～今給黎総合病院勤務

所属学会

日本形成外科学会、日本抗加齢学会

石垣 達也 (いしがき たつや)

2006年 千葉大学医学部卒業

2006年4月～2008年3月、臨床研修医

2008年4月 千葉大学形成外科学教室入局

千葉大学病院
毛山病院(高知)
高知大学病院勤務

2011年4月～今給黎総合病院勤務

所属学会

日本形成外科学会、日本美容外科学会

【診療状況（2010年1月～12月）】

外来診療

外来初診患者数	1,200名
外来手術件数	833件
外来延べ人数	7,899名

入院診療

入院患者数	372名
入院手術件数	475件

【手術件数】

外傷	463件
先天異常	45件
腫瘍	599件
癬痕・癬痕拘縮・ケロイド	53件
難治性潰瘍	58件
炎症・変性疾患	83件
美容	6件
その他	1件
顔面骨骨折	60件
切断（指、四肢）再接合	13件
四肢再建（有茎皮弁、遊離皮弁）	19件
皮膚良性腫瘍	503件
皮膚悪性腫瘍	60件
悪性腫瘍再建	41件
眼瞼下垂	25件
血管腫硬化療法	10件
耳下腺腫瘍	6件

【講演，学会活動】

【講演】

「ラップ療法」に関する日本褥瘡学会の見解
第4回鹿児島県在宅褥瘡セミナー 鹿児島
2010年1月29日
高木信介

【学会活動】

当院における顔面皮膚欠損に対する治療方針
第53回日本形成外科学会総会・学術集会
金沢 2010年4月7-9日
小野寺剛慧

仙骨部褥瘡術後管理における自動体位変換機能付きエアーマットの有用性

第7回日本褥瘡学会九州地方会 沖縄
2010年5月29日
高木信介

膚保護パウダー褥による褥瘡治療 適応範囲を拡げて

第12回日本褥瘡学会学術集会 幕張
2010年8月20-21日
高木信介

吸収性プレートを用いた眼窩底骨折の治療

日本形成外科学会九州支部第84回例会 沖縄
2010年12月11日
徳元秀樹

顔面外傷 当院の治療方針

第10回南九州外傷・形成外科フォーラム
鹿児島
高木信介

基節型骨性合指症の1例

第14回九州昭和大学形成外科同門会学術集会
鹿児島
加治佐卓也

外傷後膝関節部皮膚軟部組織欠損に対する術式の検討

第14回九州昭和大学形成外科同門会学術集会
鹿児島
徳元秀樹

【講義】

原田学園 鹿児島医療技術専門学校
2010年6月～7月 毎週火曜日
形成外科について 高木信介

脳神経外科

脳神経外科部長 西澤輝彦

【特色】

脳神経外科は当院の総合病院化に伴って開設され微力ながら脳血管障害の外科的治療を中心に地域医療に貢献してきました。特に鹿児島で最も早くからカテーテルを用いた脳神経血管内治療を手がけ、脳動脈瘤の瘤内塞栓術や頸動脈狭窄症に対するステント留置術や頭蓋内脳血管の拡張術など虚血性脳疾患に対する血行再建術などを鹿児島の主導的施設として積極的に取り組んで来ました。特にこの数年、頸動脈ステント留置術は県内でも最も良好な治療成績を上げている施設の一つです。この様な治療には脳血管撮影装置（DSA）が必要ですが、10年前には最先端だった装置も技術革新の進んだ最近の装置を比べると見劣りが目立つ状態となっていました。以前から更新をお願いしていましたが、今年度ようやく最新式の装置の導入が決まり12月末から正式稼働となりました。フラットパネル方式の撮像装置と3Dロードマップなどの治療支援ソフトを搭載し、現時点では鹿児島県内で最も鮮明な画像が得られ安全でスムーズな脳血管内治療が可能になると期待されます。

また当科は総合病院の中にあつて脳血管障害のみならず多発外傷に伴った頭部外傷や悪性腫瘍の脳転移なども多いのが特徴で、多くの診療科と共同で集学的治療が行える施設でもあります。多発外傷では整形外科、形成外科、胸部外科、麻酔科などとの良好な関係のもと治療に当たっています。また神経内科からは脳や脊髄の生検術の依頼や、形成外科とは協同で頭蓋骨や頭皮の形成術などもあり積極的に対応して行く方針です。

【人事・スタッフ】

昨年度は部長と鹿児島初のママさん脳外科医である新里先生の2名体制でしたが、今年度は4月から滝口先生が増員となり久しぶりに三名体制となりました。育児中の新里先生は夜間休日の活動に制約がありましたが、滝口先生はフルタイムの対応可能で急患の受け入れが増加しました。新里先生は7月から第二子の出産で産休入りとなり再び二名体制となってしまったのは少々残念なことでした。滝口先生は大学の人事により3月末で川内市民病院へ転勤となりましたが、引き続き鹿児島大学からの派遣が決定しており現体制は維持できる見込みです。本院の地域医療への重要度から見ても三人以上の体制が必要ですので引き続き増員への努力を続けて行きたいと思っております。

【スタッフ紹介】

〈常勤医〉

部長（副院長、医療情報システム管理者兼任）
西澤 輝彦

1979年 鹿児島大学卒業
〈取得資格〉
医学博士
日本脳神経外科学会専門医
日本脳神経血管内治療専門医
日本脳卒中学会治療専門医
頸動脈ステント留置術実施医
鹿児島市立病院非常勤医師

〈所属学会〉

日本脳神経外科学会（評議員）、日本脳卒中学会、脳卒中の外科学会、日本脳神経血管内治療学会、日本小児脳神経外科学会、日本脳神経外科コンGRESS、脳ドック学会他

滝口 浩祐（平成22年4月～平成23年3月）

2003年 鹿児島大学卒業
〈所属学会〉 日本脳神経外科学会

新里 友美（平成22年7月より産休入り、12月退職）

2004年 長崎大学卒業
〈所属学会〉

日本脳神経外科学会、日本脳神経血管内治療学会

〈非常勤医師〉

有田 和徳 鹿児島大学脳神経外科教授
平野 宏文 鹿児島大学脳神経外科講師
寺田 耕作 串木野脳神経外科センター

【学会発表】

軽微な外傷による椎骨動脈解離にて発症したと考えられたAICA症候群の1例

第29回The Mt. Fuji Workshop on CVD 福岡
2010年8月28日

甲斐 太、荒田 仁、林 茂昭、長堂竜維、
新里友美、西澤輝彦、丸山芳一

頸動脈ステント留置術後の中・後期再狭窄

第26回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術
総会 北九州市 2010年11月18-21日

鹿児島大大学院医歯学総合研究科脳神経外科学
菅田真生、森正如、西牟田洋介、時村ひろし、
有田和徳

厚地脳神経外科病院 脳神経外科 永山哲也
今給黎総合病院 脳神経外科 西澤輝彦

【診療実績】入院患者疾患別分類（2010年1～12月）

脳腫瘍	神経膠腫	3
	髄膜腫	4
	下垂体腺腫	0
	転移性脳腫瘍	8
	合計	16

血管病変	クモ膜下出血(破裂脳動脈瘤)	4
	未破裂脳動脈瘤	5
	高血圧性脳出血	23
	脳梗塞	8
	動脈狭窄(閉塞)	9
	モヤモヤ病	2
	その他	2
	合計	51

慢性硬膜下血腫	合計	18
---------	----	----

頭部外傷	急性硬膜下血腫	3
	脳挫傷	8
	その他	9
	合計	20

小児神経外科	水頭症	8
	合計	8

機能的脳神経外科	脳膿瘍	1
	その他	2
	その他	2
	合計	3

頭痛	合計	1
----	----	---

感染症	脳膿瘍	1
	その他	2
	合計	3

その他	合計	1
-----	----	---

合計 199人

【手術症例】

開頭術	腫瘍 全摘出術/亜全摘	3
	動脈瘤 クリッピング	4
穿頭術	硬膜下血(水)腫洗浄術	28
	脳室ドレナージ	3
短絡術	V-Pシャント	5
	その他	2
血管内手術	動脈瘤	4
	血管形成術(PTA)	3
	血管形成術(STENT)	8
	その他	1
その他		16

合計 65

産婦人科

産婦人科部長 寺原賢人

平成21年5月徳永修一部長が赴任されてから診療内容がかなりの変化をきたしております。即ち、ハイリスク妊婦が増加し母体搬送も急増し、これに伴って帝王切開による出産が増え、相対的に正常分娩が減少しております。この現象は当院が地域周産期母子医療センターに指定されたことも大きな一因ですがやはり徳永部長の産科医療に対する並々ならぬ情熱と責任感の結果であります。患者さんが入院すると24時間体制で監視し分娩が無事終了するまで開放されない気の遠くなりそうな日々の連続です。私には到底代行できない領域です。いつ食事を摂りいつ睡眠をとっているのか解らないほどハードな仕事をこなしております。体を大事にしてもっとゆとりのある勤務をして頂きたいのですがそれには先ず、この私が頑張らねばならないことは重々承知しています。残念ながら高齢なるが故かないません。勢い先生に頼る結果となっている次第です。先生のご苦労は当分続くのではと危惧致しております。

婦人科領域は例年通り良性、悪性腫瘍の手術や化学療法が実施されております。手術件数と内容は昨年とほぼ同様な結果となりました。しかし、本年度は多くの癌患者さんを失いました。ほとんどの方が手術に引き続き化学療法を実施し2～3年後に再発し再化学療法もむなしく癌性腹膜炎を併発された方でした。

当科は産科、婦人科に加えて新生児科を4人の医師が担当しております。それぞれの医師に大きな負担が生じております。何とか増員しなければこの先立ち行かなくなってしまうことは皆肌で感じております。どうかかしなければ・・・これが実情です。

【周産期産科部門】

産婦人科部長 徳永修一

周産期とは、妊娠22週から早期新生児7日未満の期間である。当院の産科・新生児内科は、その周産期を管理する施設、地域周産期母子医療センターとして平成21年に認可された。鹿児島県の周産期医療は、総合周産期母子医療センターである鹿児島市立病院を中心に、鹿児島大学、鹿屋医療センター、済生会川内病院、大島病院、当院が地域周産期母子医療センターとして周産期医療を行っている。多くの妊婦の妊娠管理は一次分娩施設で行われ、合併症妊娠や妊娠合併症をおこした妊婦は、周産期母子医療センターに外来紹介、あるいは、救急搬送される。当院で妊娠管理を行っている妊婦の80%は、一次施設からの紹介である。平成22年度は223人の産科入院があった。切迫早産、前期破水、妊娠高血圧症候群が三大疾患で、他に胎児発育不全、妊娠糖尿病、双胎妊娠、羊水過少、子宮頸管無力症、重症妊娠悪阻の管理を行っている。分娩数は172で、80%がハイリスク妊娠である。結果として、分娩の33%が早産であり、46%が帝王切開分娩である。

【年度別患者数】

年度	婦人科	産科	新生児科	計
S. 63	131	111		242
H. 1	138	136		274
2	145	139		284
3	175	139		314
4	142	147		289
5	167	173		340
6	177	177	40	394
7	173	172	46	391
8	175	172	59	406
9	160	179	107	446
10	130	157	82	369
11	175	206	100	481
12	161	214	81	456
13	220	236	117	573
14	244	183	124	551
15	276	179	145	600
16	243	199	150	592
17	191	209	127	527
18	197	186	170	553
19	196	258	168	622
20	208	265	142	615
21	243	246	164	653
22	255	245	177	677
計	4,322	4,328	1,999	10,649

【年度別統計】

		19年度	20年度	21年度	22年度
新患総数		944	845	826	971
入院数	婦人科	196	208	243	255
	産科	258	265	246	245
	新生児科	168	142	164	177
	計	622	615	653	677
手術件数	婦人科	153	129	112	118
	産科	69	62	78	78
	計	222	191	190	196
分娩数		182	185	175	173
	帝王切開	(67)	(54)	(70)	(71)

【年度別手術内訳】

		19年度	20年度	21年度	22年度
子宮筋腫	単純子宮全摘出術	18	17	11	24
	筋腫核出術	9	14	16	10
子宮腺筋症	単純子宮全摘出術	9	2	4	2
子宮脱	根治手術	15	3	10	4
子宮頸部癌	円錐切除術	24	12	13	20
	単純子宮全摘出術	2	2	3	3
	拡大子宮全摘出術	1	1	1	0
子宮体部癌	広汎子宮全摘出術	1	1	1	0
	単純子宮全摘出術	1	3	0	1
	拡大子宮全摘出術	2	1	3	6
卵巣嚢腫	広汎子宮全摘出術	1	1	2	1
	付属器切除術			21	21
	嚢腫摘出術	25	36	8	9
卵巣癌	根治手術	7	7	7	7
	化療後再開腹	0	1	1	0
不妊症他	内視鏡下手術	13	6	8	3
産科	帝王切開術	67	54	70	71
	子宮外妊娠手術	9	7	2	3
	頸管縫縮術	1	1	1	4
その他		17	21	8	7
計		222	190	190	196

【平成 22 年度悪性疾患内訳】

	手術	化療	手+放	手+化	放+化	放射線	計
子宮頸癌	17	3 (2)	0	0	0	2 (2)	22 (4)
子宮体癌	5	1	0	6	0	1 (1)	13
子宮体癌	0	5 (3)	0	5	0	0	10 (3)
計 (死亡)	22	9 (5)	0	11	0	3 (3)	45 (8)

【平成 22 年度産婦人科勤務医】

寺原賢人	S. 63. 1. 1	——現在
丸山有子	H. 19. 6. 1	——現在
加藤明彦	H. 19. 10. 1	——現在
徳永修一	H. 21. 5. 1	——現在

新生児内科

新生児内科部長 丸山 有子

【TOP NEWS】

- ・平成21年は、NICUが9床に増床されましたが、22年度は4月からGCUが10床に増床され、全体で19床の新生児治療施設となりました。
- ・有村こずえ看護師が、当院第一号の新生児集中ケア認定看護師になりました。
- ・池田聖子看護師が、認定看護師教育課程入学選抜試験「感染管理」に合格しました。

【診療の担当】

- ・NICU・GCUは、新生児科と産婦人科の医師で診療をおこなっています。平成22年度は、新生児内科の丸山、加藤明彦医師と産婦人科部長の徳永修一先生の3名で日々の診療を行いました。
- ・毎月1回（第3月曜日）に鹿児島大学小児科河野嘉文先生にNICU、GCUの回診をお願いしました。
- ・今年度、NICU・GCUの夜間当直業務は、当院と鹿児島市立病院新生児科と鹿児島大学産婦人科の医師により行われました。
- ・看護スタッフは、平成23年3月現在、40名（保健師2名、助産師1名、看護師36名、看護助手1名）、専任作業療法士1名でした。
- ・ハイリスク児の発達検査（新版K式発達検査）のために、鹿児島市立病院より吉永明美臨床心理士に来ていただいています。（月2回）
- ・療育指導外来には、東京小児療育病院より奈須康子先生に来ていただいています。（月1回）

【入院状況】（グラフと表を参照）

総入院数児数と体重別入院児数の経年推移をグラフ・表1に示しています。今年度の入院児総数は177名を記録し、過去最多となりました。表2は、入院経路別入院児数です。鹿児島市立病院からの新生児搬送は近年やや減少傾向にありましたが、平成22年度は微増して80名（45%）でした。母体搬送例も増加傾向にあります。表3に示すごとく、近年、人工呼吸管理施行例数が増加しておりますが、22年度はさらに増加しました。

【外来状況】

平成19年より開始した新生児内科の外来業務ですが、フォローアップ外来とシナジス外来の総受診者数は増え続けています（表4）。今後さらに診療枠を増加させなければならなくなると予想されます。

1. 新生児フォローアップ外来

22年度の年間受診者数はのべ645名でした。当院のNICUを退院した児ばかりでなく、他の地域のNICUからの紹介患者も多くなってきています。

2. シナジス外来

今年度、102名の児が当院シナジス外来を利用し、毎月1回の投与を受けました。

3. 発達検査

フォローアップ外来患者数の増加に伴い、平成22年2月より発達検査日を月2回に増やし、月6名まで新版K式発達検査を行えるようになりました。22年度は64名が受けました。次第に増加してきており、今後さらに検査枠の増加が必要な状況です。

4. 療育相談外来

月1～2人ずつ行い、22年度は14名が受けました。

【入院総数】

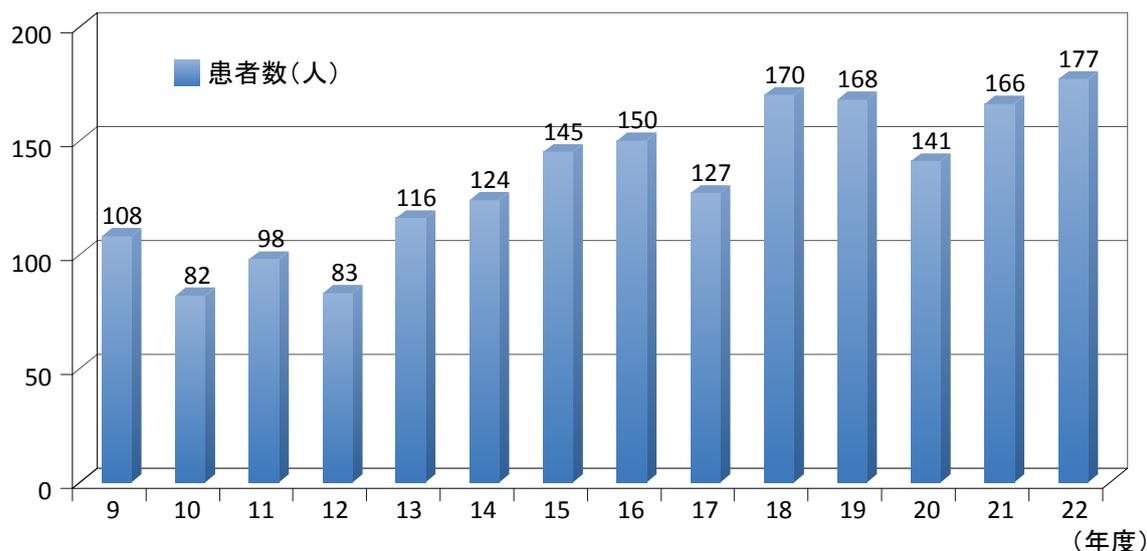


表 1 : 【出生体重別患者数内訳】

年度(平成)	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
～999g	6	8	12	3	3	5	7	7	3	0	1	3	3	2
1000g～1499g	23	21	16	16	15	16	25	36	27	18	32	35	26	40
1500g～1999g	31	25	26	21	35	48	53	58	46	67	61	43	46	49
2000g～2499g	18	9	28	21	36	23	33	25	34	55	31	35	52	46
2500g～	30	19	16	22	27	32	27	24	17	30	43	25	37	40

表 2 : 【入院経路別患者数および院内出生率】

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
当院外来管理後の院内出生	31	24	13	10	25	17	24	14	15	24	26	9	29	28
母体搬送後の院内出生	4	3	3	17	27	20	17	15	17	33	51	42	39	47
市立病院より新生児搬送	67	51	69	35	48	70	94	112	89	100	75	66	66	80
大学よりgrowing care入院											3	3	6	1
他院よりの新生児搬送	6	4	13	21	16	17	10	9	6	13	13	23	24	21
院内出生率(%)	32	33	16	33	45	30	28	19	25	34	46	36	41	42

表 3 : 【人工呼吸管理施行患者数】

年度(平成)	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
人工呼吸管理施行数(nasal CPAP)					1		5	4	5	9	15	19	12	44
人工呼吸管理施行数(挿管症例)	10	5	4	9	7	10	4	2	4	4	21	19	13	13
人工呼吸管理施行数	10	5	4	9	8	10	9	6	6	13	36	38	25	57

表 4 : 【シナジス外来患者数】

年度(平成)	19	20	21	22
のべ人数(人)	307	684	770	890

【地域連携活動】

1. 地域保健師と家族の面談を企画

以前より、ハイリスクな児が地域へ退院する際には地域の担当保健師へ情報を提供してきましたが、最近では、NICU入院中から保健師と家族の面談を企画し、その後の良好な関係作りを図っています。22年度は18例のご家族が保健師面談後に安心して地域へ帰りました。

2. 会議への出席

- ・ 第1回 子どもすこやか安心ネット事業調整会議への出席（平成22年5月25日）
本山美穂、水間真希子、原田純子、丸山有子
- ・ 第2回 子どもすこやか安心ネット事業調整会議への出席（平成23年1月28日）
本山美穂、勝木千夏、水間真希子、原田純子、丸山有子
- ・ 第1回 ハイリスク母子保健施設間医療連携会議への出席（平成22年5月14日）
本山美穂、原田純子、古川秀子
- ・ 第2回 ハイリスク母子保健施設間医療連携会議への出席（平成22年8月13日）
池田聖子、原田純子、古川秀子
- ・ 第2回 みらい連携会議への出席（平成22年7月7日）
山中梨沙、宮崎由香里、原田純子、丸山有子
- ・ 平成22年度 ハイリスク母子保健訪問指導研修会（平成23年2月15日）
勝木千夏、本山美穂、原田純子、古川秀子
- ・ 第7回 鹿児島重症児（者）関連施設連絡協議会（平成22年9月10日）
宮崎由香里、上山 恵、小森孝子、江藤理恵、原田純子、古川秀子、加藤明彦
- ・ 平成22年度 地域母子保健推進研究会（平成23年2月22日）
古川秀子

【いろいろな活動】

1. クリニカルパス作成と運用

超、極低出生体重児入院用のクニカルパスを作成し運用を開始しました。児の入院から退院までに予定されていることを家族が理解しやすくなりました。

2. PIPC(早産児の両親学級)

10回開催し、102人の方が聴講してくださいました。

3. 健康相談・ボランティア活動

- ・ 平成22年度国民体育大会第30回九州ブロック大会（平成22年7月18日）：江藤理恵
- ・ 平成22年度鹿児島・岐阜青少年ふれあい事業（平成22年7月23～26日）：山中梨沙

4. スタッフのための勉強会

- ・ 月曜レクチャー：40 回開催
- ・ 茨 聡先生による新生児学レクチャー：合計 12 回、新生児医療に関するレクチャーを行っていただきました。
- ・ NCPR シュミレーション：年間 5 回施行。
- ・ 看護師・作業療法士による勉強会：10 回
- ・ 手術室との合同勉強会：1 回

5. 院外教育活動

- ・ 加藤明彦：新生児蘇生法講習会『専門』コースインストラクター養成講習会（I コース）（平成23年3月12日開催）へインストラクターとして参加
- ・ 加藤明彦：久木田学園看護専門学校 看護科（母性看護学・女性生殖器）40 時間
- ・ 丸山有子：南学園 鹿児島医療福祉専門学校看護学科 疾病論VI(母性 正常・異常) 15 時間

6. 実習受入れ

- ・ 久木田学園看護専門学校 母性看護学実習
3年生 14名

【講演】

低出生体重児の地域支援～周産期母子医療センターと保健所の連携について
鹿児島県保健福祉部子ども福祉課母子保健係
ハイリスク母子保健訪問指導研修会
2011年2月15日
古川秀子

赤ちゃんの心を育むお母さんの関わり方
地域母子保健推進研究会 鹿児島
2011年2月22日
古川秀子

赤ちゃんにやさしい新生児看護～周産期母子医療センターと保健所の連携について～
平成22年度 宮崎県産婦人科病院医療従事者研究会（第15回ひむかセミナー）
2011年3月5日
古川秀子

【学会発表】

地域の保健師との連携強化による継続支援の充実
第25回ハイリスク児フォローアップ研究会
名古屋 2010年6月6日
本山美穂

当院NICUの養育環境の現状と今後の課題～温度の測定結果より～
第57回九州新生児研究会 山口 2010年11月20日
倉園美衣子

当院NICUの光環境の現状と今後の課題

第20回日本新生児看護学会 横浜 2011年11月7日
飯塚君枝

新生児の痛みに対するスタッフの認識や現状と今後の課題

第44回鹿児島県保健看護研究会 2011年1月21日
有村こずえ

赤ちゃんにやさしいNICUベッドまわりの進化ー複合型保育器使用時における体温管理ー

第13回新生児呼吸療法・モニタリングフォーラム 企業企画セッション 長野 2011年2月17日
古川秀子

【平成 23 年度の計画】

- ・ 新生児特定集中治療室退院調整加算取得予定
- ・ フォローアップ外来診療枠の増加
- ・ 発達検査枠の増加
- ・ 新病院のNICU・GCUの設計
- ・ 新生児フォローアップセンター構想を検討
- ・ 他の社会資源（保健所、リハビリ施設、訪問看護ステーション、療育デイサービスなど）との連携のさらなる強化
- ・ Developmental Careに関する看護研究の継続

【院内発表】

NICUにおけるOTの取り組み

院内看護研究発表会 2010年12月4日
中村 環

【著書】

Relationship between enlargement of the lateral ventricle and peribentricular leukomalacia in infants.

J Obstet Gynecol Res. 2010 Oct;36(5):984-90.

Kato A, Ibara S, Maruyama Y, Terahara M

妊婦のトキソプラズマ感染

周産期診療指針2010, 周産期医学 40 増刊号 :264-267.

丸山有子

ウイルス性母子感染

今日の治療指針 2011年版（医学書院） : 1143-1144.

丸山有子

Cytomegalobirus

産婦人科の実際 60(3) : 351-358.

丸山有子

【資格取得等】

- ・ 有村こずえ：新生児集中ケア認定看護師
- ・ 有村こずえ、吉川香奈、原田純子：
日本周産期・新生児医学会による新生児蘇生法「専門」コースインストラクター認定
- ・ 末野百絵、江藤理恵、村山理奈、楠元友梨、池田聖子：
日本周産期・新生児医学会による新生児蘇生法「専門」コース修了認定

小児科

小児科部長 玉田 泉

【診療内容・特徴】

平成22年度も銚之原昌医師、堀之内兼一医師、玉田の3名で診療いたしました。一般外来のほか、堀之内先生は小児腎疾患患者のfollow、また玉田は小児内分泌疾患の専門外来を実施しています。一般外来の特徴としては検査の出来る総合病院といった位置付けでの受診が多く、セカンドオピニオンを求めている検査を希望されての受診が多いようです。その他市県からの委託による乳幼児健診、予防接種業務を行っており、また新生児マスキング、学校健診・学校検尿や生活習慣病予防健診での精密受診者の受け入れや精密検査後のfollowも行っています。入院業務では近隣の開業医の先生方から多くのご紹介を頂き、比較的軽症の一般小児疾患の入院加療、また専門性を生かした検査入院や教育入院などを行いました。

職員の子供さん対象の病児保育室も設置後2年が経過し順調に運営しています。子育て世代の職員のバックアップのためスタッフともども貢献できればと考えています。

【スタッフ紹介・講義 / 院外活動】

銚之原昌：小児科専門医、小児リウマチ専門医

鹿児島子どもの虐待問題研究会 会長

鹿児島県膠原病研究会 代表世話人

鹿児島小児保健学会役員

日本小児リウマチ学会役員

鹿児島文化サロン 委員

鹿児島小児膠原病父母の会ひまわりの会 委員

鹿児島市すこやか子ども元気プラン地域協議会 委員

鹿児島県保育所乳児保育研修会講師

放送大学講師

鹿児島県立短期大学非常勤講師（小児栄養学）

堀之内兼一：小児科専門医

日本補完代替医療学会学識医 学会理事

鹿児島市医師会学校腎臓病健診 委員

久木田看護専門学校 非常勤講師

European Univ. Vandrina 非常勤講師（漢学の講義）

玉田 泉：小児科専門医

日本糖尿病協会療養指導医

加治木女子高等学校看護学科専門課程 講師

鹿児島大学小児科 非常勤講師

【診療状況】

外来診療 外来患者数延べ 12,837人

入院患者実数 221人

いずれも例年に対しかなりの増加となっています。

【診療実績】

入院疾患（延べ人数）

急性気管支炎・肺炎	123人
内分泌精査 (成長ホルモン検査・糖尿病疑いを含む)	18人
急性胃腸炎	12人
急性上気道炎・中耳炎	12人
糖尿病（教育・コントロール）	9人
気管支喘息	8人
髄膜炎（疑い含む）	7人
心身症（不登校など）	6人
熱性けいれん	4人
その他	23人

特徴としては肺炎の入院の増加、糖尿病や内分泌の検査入院の数が多かったことなどがあげられます。また心身症やDMコントロールでの繰り返し入院例があったことも入院数の増加につながったと考えます。

【院外活動 / 講演会 学会活動など】

銚之原昌

- 1) 鹿児島子どもの虐待問題研究会、開催(年6回)
- 2) 鹿児島文化サロン 委員として開催参加(年4回)
- 3) 鹿児島県膠原病研究会 開催(年2回)
- 4) 鹿児島小児膠原病父母の会ひまわりの会(8/8) 委員として開催参加

- 5) 南日本子ども健康セミナー(9/15)育児相談など
- 6) 鹿児島市すこやか子ども元気プラン地域協議会委員として参加
- 7) 平成22年度鹿児島市民生委員児童委員協議会(4/23)
特別講演「子どもの虐待を防止するには」
- 8) MBCラジオ出演「児童虐待について」(6/16)
- 9) 平成22年度鹿児島県保育所乳児保育研修会(8/16)
講演「乳児保健の意義と役割」
- 10) 平成22年度南大隅人権同和教育研修会(9/4)
講演「児童虐待の実態と予防」

堀之内 兼一

- 2010年9月 第145回日本小児科学会鹿児島地方会 座長
- 2010年11月 第9回鹿児島小児腎疾患研究会 座長
- 2010年11月 第9回小児腎疾患研究会(共同演者)
「学校検診で尿蛋白を発見され経過中にSLEを発症した1女児例」
- 2010年12月 第13回日本補完代替医療学会 理事として参加

玉田 泉

- ・1型糖尿病家族会「さくらんぼの会昭和会支部」指導医、年に2回定例会
- ・1型糖尿病サマーキャンプ(平成22.7.31~8.1)指導医として参加
- ・ターナー症候群家族会、年に2回定例会参加

・学会発表

低カリウム血症で発見された原発性アルドステロン症の1例

第44回日本小児内分泌学会 大阪

2010年10月7-9日

古城圭馴美, 溝田美智代, 玉田 泉, 大坪喜代子, 森田 智, 上野さやか, 檜作和子, 田島敏広, 河野嘉文

低身長を合併し成長ホルモン治療を開始した高インスリン-高アンモニア血症症候群の1例

第44回日本小児内分泌学会 大阪

2010年10月7-9日

玉田 泉, 溝田美智代, 大坪喜代子, 森田 智, 河野嘉文

低カリウム血症で発見された原発性アルドステロン症の1例

日本内分泌学会九州地方会 鹿児島

2010年8月28日

古城圭馴美, 樋木大祐, 溝田美智代, 玉田 泉, 大坪喜代子, 森田 智, 上野さやか, 檜作和子, 田島敏広, 河野嘉文

性の決定が困難で出生届を保留した社会的男児例
日本内分泌学会九州地方会 鹿児島
2010年8月28日
檜作和子, 溝田美智代, 玉田 泉, 大坪喜代子, 森田 智

Invisible stalk症候群による下垂体機能低下症の2例

第144回日本小児科学会鹿児島地方会 鹿児島

2010年6月20日

四元景子, 溝田美智代, 玉田 泉, 大坪喜代子, 森田 智, 上野さやか, 檜作和子, 河野嘉文

中枢性思春期早発症に対するLHRHアナログの投与量とコントロール指標の検討

第15回鹿児島県小児内分泌研究会 鹿児島市

2010.11.27

森田 智, 溝田美智代, 玉田 泉, 大坪喜代子

成長ホルモン治療を開始したSGA性低身長症の10例

第146回日本小児科学会鹿児島地方会 鹿児島

2011年2月13日

玉田 泉, 森田 智, 大坪喜代子, 溝田美智代

・原著

One novel and two recurrent THRB mutations associated with resistance to thyroid hormone: structure-based computational mutation prediction.

Clin Pediatr Endocrinol 2010;19(4):91-99

Narumi S, Cho H, Tamada I, Kozu Y,

Tsuchiya T, Nagai T, and Hasegawa T.

Monocarboxylate transporter 8 (MCT8) 遺伝子変異を認めた2例

日本甲状腺学会雑誌 1(2):126-128, 2010

溝田美智代, 丸山慎介, 伊藤順庸, 玉田 泉,

大坪喜代子, 森田 智, 檜作和子,

上野さやか, 犀川太, 河野嘉文

・その他

平成22年8月7日、平成23年3月5日には医師会主催のこども予防接種週間に参加して土曜の午後に予防接種業務を行いました。

【平成23年度計画】

銚之原昌、堀之内兼一、玉田泉の3名にて引き続き診療にあたります。

平成23年5月より堀之内 泉先生が外来診療を開始されます。

泌尿器科

泌尿器科部長 中目康彦

平成23年4月より石原先生、大迫先生に代わり県立大島病院より井口智生先生、済生会川内病院より慶田喜文先生が着任され松下真治先生との4人体制で診療しています。外来患者数は1日50人前後、入院は30人前後です。外来では新患担当医が初診の方を担当しています。再診の方は原則予約制でできるだけ待ち時間のないようにしています。当院はCT検査まですぐ行える体制ですので、その日のうちに診断、治療方針をたてるようにしています。血液透析は入院患者のみで日4～6名、基本的に月、水、金の週3回です。緊急透析は24時間体制で受けています。手術は経尿道的手術から腹腔鏡下手術まで行っています。最近では膀胱癌などの骨盤内臓器脱手術（TVM法）を開始し、平成22年度は8例経験しました。限局性前立腺癌の治療は密封小線源治療（ブラキセラピー）が多く平成19年11月以来200名の方が治療を受けています。

以上簡単ですが近況を報告致しました。今後も急性期病院として患者さまの迅速は受け入れ、検査、治療に努力していきたいと思っております。

分類	手術	件数
腎・尿管	腎摘除術	10
	腹腔鏡下腎摘除術	5
	HALS	1
	腎部分切除術	4
	腎尿管全摘術	8
	腎瘻造設術	6
	経尿道的尿管結石砕石術	2
	尿管切石術	2
	腎生検	2
	腎嚢胞穿刺	2
膀胱	経尿道的膀胱腫瘍切除術	69
	膀胱全摘除術	3
	膀胱部分切除術	1
	経尿道的膀胱結石破碎術	7
	膀胱切石術	1
	膀胱瘻造設術	2
尿道	TVT手術	1
	TVM手術	8
	内尿道切開術	3

分類	手術	件数
前立腺	経尿道的前立腺手術	27
	前立腺全摘除術	20
	前立腺密封小線源療法	60
陰茎・精巣	精巣摘除術	2
	精巣固定術	6
	会陰部デブリードメント	2
	陰茎腫瘍切除術	3
	陰嚢水腫根治術	5
	背面切開術	1
	環状切開術	4
陰茎折症手術	1	
その他	内シヤント造設術	6
	イレウス解除術	1
	尿管鏡検査・尿管ステント留置	8
	後腹膜膿瘍ドレナージ	2
	前立腺生検	1
	腹壁下腫瘍摘出術	1
閉鎖神経リンパ節生検	1	

眼 科

眼科部長 北村 昌 弥

平成22年度は昭和大学より高橋先生が着任し、北村部長、須田先生との3人体制で診療に当たりました。（尚、須田先生は平成23年3月で異動となりました。）

【外来スタッフ】

専任の川崎看護師、郡山看護師に加え川口看護師が主に担当しております。

検査・診療補助は上村、川畑視能訓練士、木之下、鶴之園、料屋、受付は赤塚、泊で行なっております。

【外来診療体制】

平日午前は3人体制、午後は1人体制で外来診療を行っております。

土曜日は新患と予約のみ診療を行っております。

【外来診療実績】

平成22年度は新患数1,830名、再来数11,666名、合計13,496名が受診されました。

新患は近医および、離島など鹿児島全土からの紹介が多く、難症例の手術依頼も多数あります。

また外来では、普通診療の他にもレーザー治療や処置も多数施行しております。

【手術実績】

内眼手術、外眼手術総数は1,005件でした。

この中には非常に多数の難症例も含まれており、全身麻酔下での手術症例も多数ありました。

【入院治療】

4階西病棟が眼科病棟となっております。

稲森師長を中心に看護・治療にあたっています。

高齢者はもとより、糖尿病、認知症などを有する患者様も多く、糖尿病内科の盛満先生をはじめ、循環器内科や麻酔科の諸先生方など各科の先生方には大変お世話になっております。

どうか今後ともよろしくお願い申し上げます。

気管食道・耳鼻いんこう科

気管食道・耳鼻いんこう科部長 昇 卓 夫

【平成22年度手術件数】

a) 耳科領域 34件	
1. 鼓膜チューブ留置術（全麻）	2件
2. 鼓膜形成術	8件
3. 鼓室形成術	19件
4. 顔面神経減荷術	1件
5. 先天性耳瘻孔手術	2件
6. 鼓膜切開術（全麻）	1件
7. その他	1件
b) 鼻科領域 60件	
1. 鼻中隔矯正術、両下鼻甲介切除術	29件
2. 鼻内副鼻腔手術（内視鏡下）	19件
3. 副鼻腔のう胞手術	11件
4. 鼻茸手術	1件
c) 口腔・上中咽頭領域 86件	
1. 口蓋扁桃摘出術	75件
2. アデノイド切除術	8件
3. 舌腫瘍手術	1件
4. その他	2件
d) 喉頭・気管・下咽頭・食道領域 15件	
1. 気管切開術	1件
2. 内視鏡下手術 声帯ポリープ・結節切除術	13件
3. 食道異物	1件
e) 顔面・頸部領域 21件	
1. 唾石（含顎下腺）摘出術	2件
2. 唾液腺腫瘍	13件
3. 甲状腺手術	1件
4. その他	4件

手術件数合計：216件

【平成22年度頭頸部悪性腫瘍症例】

a) 唾液腺	2例
b) 扁桃	1例
c) 頸部	1例

【主催学会】

鹿児島集談会は休会中

【講義】

久木田学園看護専門学校

皮膚科

皮膚科部長 児浦純生

本年から、吉福明日香、児浦純生の両医師が担当した。

【診療内容・特徴】

診療内容・特徴は今年の昭和会誌に述べた通りである。図表にまとめて示した。
(平成22年4月から平成23年3月まで、手術件数75件)。

【スタッフ紹介】

児浦純生 (部長)

〈資格・他〉

鹿児島大学医学部 臨床教授

皮膚科専門認定医

医学博士

鹿児島大学医学部皮膚科教室 同門会長

日本皮膚科学会功労会員 (平成19年4月～)

〈所属学会〉

日本皮膚科学会

吉福明日香

〈経歴 他〉

今村病院分院血液内科 (半年間)

鹿児島市立病院皮膚科 (9ヶ月)

その間、鹿児島大学医局員

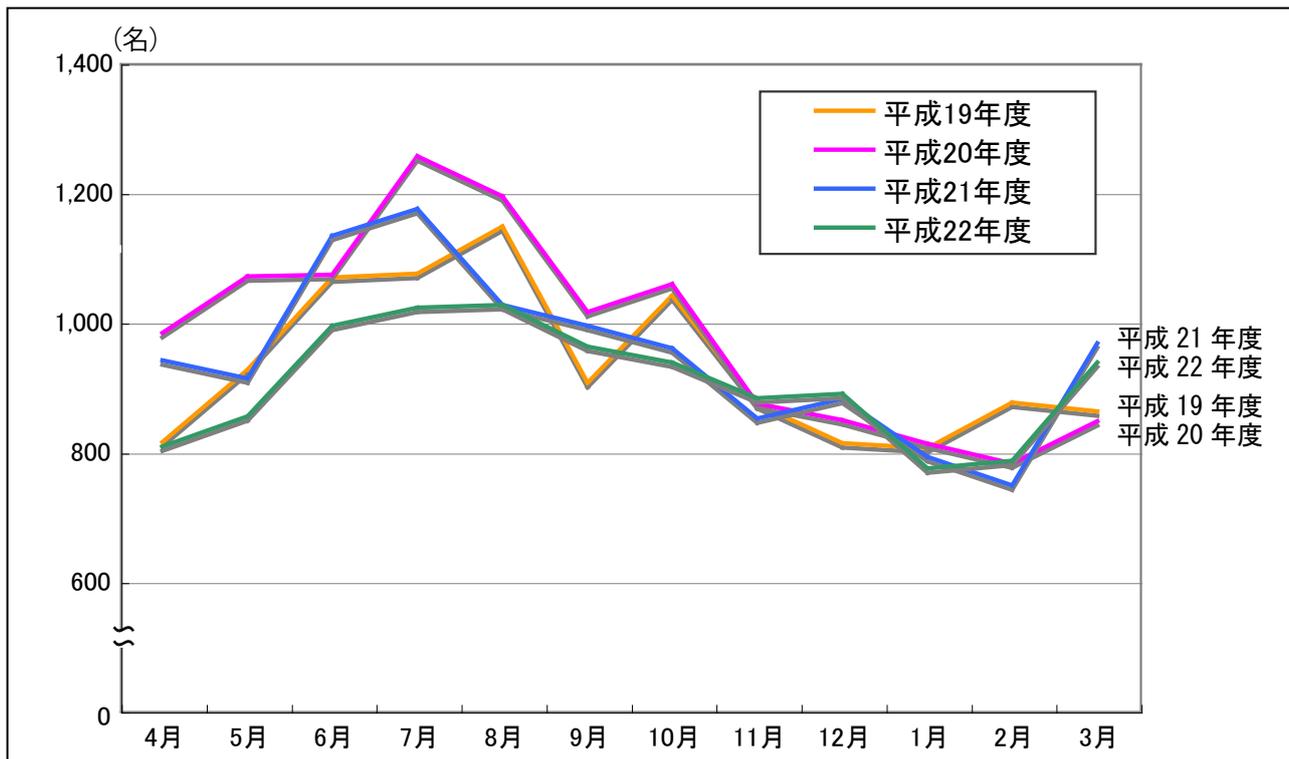
〈所属学会〉

日本皮膚科学会

【外来入院患者数の最近4年間の動態】

	平成19年度			平成20年度			平成21年度			平成22年度			
	外来			外来	新入院	延入院	外来	新入院	延入院	外来	新入院	延入院	
4月	815			983	6	45	941	3	26	808	6	105	
5月	927			1,071	4	55	913	4	40	855	6	117	
6月	1,069			1,073	3	42	1,133	6	66	994	14	154	
7月	1,075			1,256	8	47	1,175	8	119	1,022	16	201	
8月	1,148			1,194	5	47	1,027	9	101	1,027	10	117	
9月	906			1,016	7	88	994	9	158	962	13	174	
10月	1,041			1,059	5	45	960	8	147	938	9	163	
11月	873			874	2	20	851	5	56	883	12	165	
12月	813			849	4	40	882	7	174	889	12	161	
1月	806			812	4	34	792	7	71	774	10	173	
2月	876			782	9	65	748	6	57	786	12	137	
3月	862			847	5	56	967	5	54	938	9	169	
計	11,211			11,816	62	584	11,383	77	1,069	10,876	129	1,836	
外来	初診	2,862			2,949			3,044			2,838		
	再診	8,349			8,867			8,339			8,038		
紹介患者数	186			166			200			190			

【外来患者数動態グラフ（3年間）】



【学会発表】

今給黎総合病院 皮膚科出張報告

第156回日本皮膚科学会鹿児島地方会総会 鹿児島市 2010年4月5日
猿渡 浩、児浦 純生

特異疹の自然消褪が認められたATLLの1例

第156回日本皮膚科学会鹿児島地方会総会 鹿児島市 2010年4月25日
児浦 純生

【講演】

老いの肌のケアー

上町健康大学 南洲顕彰館 鹿児島市 2010年9月25日
児浦 純生

麻 酔 科

麻酔科部長 池田 耕自

当院における麻酔科の診療内容は手術麻酔、集中治療室等における重症患者管理等である。

今年度における麻酔科の陣容は、5名の麻酔科常勤医と他科からの研修医1名、非常勤医1名の7名体制であった。さらに卒後研修医3人の研修を行った。

平成22年度の今給黎総合病院麻酔科管理症例数は2,392件であった。この内、緊急手術は283件（時間外166件）であり全体の11.8%程度を占める。手術室は6室有り、最大で7件の同時並行手術が可能である。

各科別の麻酔件数は、整形外科 755 件(31.5%)、耳鼻咽喉科 185 件(7.7%)、外科 291 件(12.2%)、泌尿器科 268 件(11.2%)、産科婦人科 221 件(9.2%)、形成外科 258 件(10.8%)、呼吸器外科 143 件(6.0%)、歯科口腔外科 145 件(6.1%)、眼科 100 件(4.2%)脳神経外科 25 件(1.0%)、といった現状であった。

麻酔症例内訳	
総症例数（緊急）	2,392 (283)
全身麻酔	1,463
全麻＋硬麻等	301
脊麻・硬麻等	602
伝達麻酔	4
その他	22

【各科別麻酔依頼件数（緊急）】

	件数 (%)	緊急
整形外科	755 (31.5)	68
耳鼻咽喉科	185 (7.7)	5
外科	291 (12.2)	83
泌尿器科	268 (11.2)	11
産科婦人科	221 (9.2)	89
形成外科	258 (10.8)	21
呼吸器外科	143 (6.0)	0
歯科口腔外科	145 (6.1)	0
眼科	100 (4.2)	5
脳神経外科	25 (1.0)	1
その他	1 (0.1)	0

【ICU】

平成22年度のICU入室件数は534件である。各科の内訳は以下の通りである

【各科別麻酔依頼件数（緊急）】

科名	入室者数
外科	139
呼吸器外科	109
整形外科	67
泌尿器科	62
脳神経外科	56
神経内科	21
産婦人科	18
麻酔科	14
循環器内科	13
呼吸器内科	13
形成外科	10
消化器内科	6
総合内科	3
その他	3
合計	534

麻酔科管理患者は14名で内訳は急性薬物中毒3名、重症急性膵炎3名、心肺蘇生後3名、出血性ショック1名、重度脱水2名、糖尿病性昏睡1名、肝不全1名であった。

【麻酔科医名】

池田 耕自
 西山 淳（平成17年10月～）
 川前 博和（平成21年4月～）
 村山 裕美（平成21年4月～平成22年6月）
 今給黎 南香（平成21年11月～平成22年9月）
 榎畑 京（平成22年7月～平成23年3月）
 齊藤 健太（平成22年10月～）

大久保 啓史（平成22年7月～10月）
 田辺 寛（平成22年11月～平成23年2月）

米盛 圭一（平成22年6月～7月）
 藤崎 瑛隆（平成22年9月～10月）
 有川 明芳（平成22年3月～）

放射線診断科

放射線診断科部長 井手上 淳一

当院ではCT(64列 1機、16列 1機、6列 1機)・MRI(1.5T 1機、1.0T 1機)・RI・DSA・透視 2機・乳房 X 線装置・マンモトーム機などを備えています。

平成 22 年度には透視・DSA 装置の更新、平成 23 年度には RI 装置の更新と常に最新の機器を使用し、PACS・フィルムレス運用にて効率的で最良な画像診断を目指しています。また、これらの医療機器を広く公開利用し、地域医療へ貢献しています。

IVR (治療) として肝癌や腎癌への動注塞栓術をはじめ、膀胱腫瘍や頭頸部癌への動注療法や救急疾患の中で外傷等による臓器損傷・膵炎や咯血などに対して血管内治療を積極的に取り組んでいます。

当院では診療の質向上のために整形・呼吸器・消化器・循環器・脳神経系カンファレンスなどが日常診療の合間に頻回に行われており、画像診断の向上に努めております。

今年度は 4 人の常勤 (大久保 幸一昭和会クリニック院長・井手上 淳一・米山 知秀・小林 秀章) で日常診療を精力的に行っています。

【検査件数】

	件数
1. 一般撮影	47,705
2. 透視・造影撮影	1,569
3. 骨塩定量測定	451
4. X線CT	13,624
5. DSA/Angio	148
6. RI	891
7. MRI	5,425

【入院診療患者】

【主病名別患者数】

肺癌	24
転移性骨腫瘍	17
肝癌	14
食道癌	7
直腸癌	7
転移性脳腫瘍	7
前立腺癌	2
鎖骨上リンパ節転移	2
縦隔リンパ節転移	2
転移性肺腫瘍	2
脾動脈瘤	2
肛門管癌	1
膵体癌	1
乳癌	1
子宮頸癌	1
頸部リンパ節転移	1
びまん性大細胞性B型細胞型リンパ腫	1
胃悪性リンパ腫	1
成人型T細胞白血病	1
顆粒球肉腫を伴う急性骨髄性白血病	1
良性胸椎神経鞘腫	1
多発性肝腫瘍	1
骨髄異形成症候群	1
胸郭出口症候群疑い	1
蘇生に成功した心停止	1
門脈血栓症	1
上大静脈症候群	1
市中肺炎	1
急性硬膜外血腫	1
合計	104

【悪性新生物原発巣別患者数】

肺癌	38
肝癌	18
食道癌	10
直腸癌	8
乳癌	5
子宮頸癌	2
前立腺癌	2
S状結腸癌	1
胃MAL Tリンパ腫	1
胃癌	1
頸部顆粒球性肉腫	1
肛門管癌	1
十二指腸乳頭癌	1
膵体癌	1
成人T細胞リンパ腫	1
前立腺癌	1
胆嚢癌	1
直腸悪性黒色腫	1
びまん性大細胞性B型細胞型リンパ腫	1
合計	95

【学会活動】

【学会発表】

当院で経験した隆起性皮膚線維肉腫4例のMRI検査
所見の検討

第168回日本医学放射線学会九州地方会 佐賀
2009年2月14日
立山 暁大ほか

【論文・著書】

急性腹症で発症した消化管（回腸）重複症の1例
鹿児島市医報 第48巻 第5号 2009年5月
立山 暁大ほか

放射線治療科

放射線治療科部長 中 禮 久 彦

平成19年秋よりリニアックセンターが開設され、早いもので3年半が経過いたしました。関係皆様方のおかげで、リニアック照射の年間新規患者さまは毎年300名前後を数えており、治療医が私1名体制としては県内でも指折りの施設に挙げられております。

根治性を高めつつ、有害反応を低減するためのノンコプラナ多門照射や肺癌に対する定位集光照射(SRT)の患者さまも途絶えることがありません。昨年は当院としては初めて前立腺癌に対して強度変調放射線治療(IMRT)を施行いたしました。

院外からの紹介に対応して、当科病棟へ入院して同時化学療法併用を含む放射線治療をお受けになる患者さまも常時10名程いらっしゃいます。ただし現状では診断医の先生方のご協力をいただいても対応可能な病床数が限られることから、緊急の場合を除き、患者さまに入院まで2週間ほどお待ちいただく場合もあります。

また当院泌尿器科の中目先生に協力いたしまして、前立腺癌に対する小線源放射線治療(前立腺シード治療)も行っております。毎週1~2名、年間では60名以上で全国でも有数の症例数を誇っております。

本邦及び当院で放射線科の中では既に確立された診断部門に加えて、県内では初めて当院において5年前に新たに治療部門を立ち上げて下さった関係皆様方には改めて心よりお礼を申し上げる次第です。日本放射線腫瘍学会(JASTRO)協力施設の認定をいただいておりますが、さらなる発展のためには治療医の増員が不可欠で、鹿児島を含む全国の若い先生方に期待したいと存じます。

これからも鹿児島の癌患者さまのために微力ながらお役に立てれば幸いです。

緩和医療科

緩和医療科部長 松添大助

平成21年度に緩和ケアチームがスタートし、平成22年度にこれまでの連携診療科を緩和医療科と改めました。他科との並診、あるいは転科して当科単独など、状況に応じて入院・外来診療を行っています。また、在宅医療部と連携して在宅緩和ケアにも取り組んでいます。癌末期の患者さんおよびその家族において、希望する療養の場はその時その時の病状によって変わります。自宅、病院、ホスピス・患者・家族にとって最適な選択をサポートできればと努力しています。

来年度には精神腫瘍担当医として鹿児島大学から精神科医が週1回の非常勤で来ていただけることになりました。また大西看護師が緩和ケア認定看護師の資格をとるべく半年間の研修にでて、その間を2階東病棟の森友紀看護師が専従看護師の任にあたってくれる予定です。

【緩和ケアチームメンバー】

専従医師：松添大助
 専従看護師：大西玲子
 (2011年6/1より森友紀へ交代予定)
 保健師：植屋明代
 薬剤部：財間富士子、久津輪久世、
 富永修平、前嶋一友
 リハビリテーション部
 :古市寿子、宮之原俊一、木原智美
 白石哲也、高田奨、小渡麻理子
 栄養管理部：上平田美樹、鈴木聖子
 MSW (ソーシャルワーカー)
 :原口一博、吉満実

【学会活動等】

事例検討：原因が明らかでない頑固な嘔吐
 緩和ケア特別セミナー 鹿児島市
 2010年11月12日
 松添大助

当院における緩和ケア連携の現状
 鹿児島市の緩和ケア連携に関する懇話会
 鹿児島市 2010年1月9日
 松添大助

【主催研修会】

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会
 鹿児島県民交流センター 2010年10月9-10日

【在宅緩和ケア】

	21年度	22年度
在宅診療患者数	7	9
〔看取りの場所〕		
自宅	4	3
今給黎病院	2	5
転院	1	1

【診療科別紹介患者数】

	21年度	22年度
呼吸器内科	11	20
外科	3	18
泌尿器科	4	11
呼吸器外科	8	10
婦人科	6	6
血液内科	2	3
整形外科	2	2
消化器内科	1	1
放射線科	2	0
神経内科	0	1
循環器内科	0	1
総合内科	0	1
計	39	74

病理診断科

病理診断科部長 白濱 浩

平成22年12月11日 岡山大学吉野教授をお招きし、鹿児島病理集談会を当院で行いました。今回は悪性リンパ腫のセミナーや症例検討を吉野教授と当院の田代で行い、好評を得ました。今後も臨床医と協力しこの会を発展させていきたいと思ひます。今後とも御協力宜しくお願ひします。

昨年度からRT-PCRによる軟部腫瘍の遺伝子解析を始めましたが、現在、滑膜肉腫およびPNET/ユーイング肉腫グループについて行っています。今のところ件数が少なく、陽性症例もまだ数例のみです。今後はIgHのリアレンジメントの検出など血液疾患へ拡大していく予定です。

このように業務内容が拡大していく中、当院でも器械導入による標準化および精度管理がより重要となってきました。本年度の保険点数改正により免疫染色に加算が算定できるようになり、当院では悪性血液疾患や悪性中皮腫、軟部腫瘍による免疫染色が多いため、この増収により自動免疫染色装置を2台導入いたしました。これに伴い、自動免疫染色装置によるHER2発現の診断を院内で行うことが出来るようになり、迅速な対応が出来るようになりました。

本年度から細胞診の統計を日本臨床細胞学会への報告様式に従い記載しております。器械導入により免疫染色1枚あたりの試薬単価は現状の3倍以上になり、診断に必要なコストはあがる一方ですが、より迅速で正確な診断を求めていきたいと思ひます。

【病理部スタッフ】

医師

白濱 浩 (日本病理学会病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、臨床検査管理医)
田代 幸恵 (日本病理学会病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医)

技師

徳永 敬之 (臨床病理技術士)
肥後 真 (臨床検査技師、国際細胞検査士)
新村 泰子 (臨床検査技師)
田邊 尚子 (臨床検査技師、細胞検査士)
岩崎 明日香 (臨床検査技師)

組織診および細胞診検体数

	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
組織件数	4,110	3,791	4,736	3,232	3,644
細胞診件数	3,174	3,315	3,011	2,855	3,168

剖検例

剖検番号	年齢・性	出所	主要剖検診断
QA-2010-1	82M	呼吸器内科	縦隔腫瘍

- ・ 術中迅速診断： 225件 (内、院外からの依頼：7件)
(H18年度：306件、H19年度：319件、H20年度：292件、H21年度：274件)
- ・ 院外からの血液疾患関連Marker検索および診断依頼：22件
(H18年度：33件、H19年度：30件、H20年度：22件、H21年度：21件)
- ・ 院外からの免疫染色依頼 (パラフィン切片による)：966件
(H18年度：781件、H19年度：924件、H20年度：1007件、H21年度：1086件)

細胞診断統計 (2010.04.01~2011.03.31)

	陰 性	擬 陽 性	陽 性	材料不適	合 計
婦 人 科	1,495	54	26	6	1,581
呼 吸 器	543	28	123	12	706
消 化 器	25	2	8	1	36
泌 尿 器	361	24	30	0	415
乳 腺	24	7	12	15	58
甲 状 腺	32	25	4	0	61
体 腔 液	183	13	46	0	242
リンパ節	3	1	4	0	8
そ の 他	56	1	4	0	61
合 計	2,722	155	257	34	3,168

組織診断統計 (2010.04.01~2011.03.31)

	生 検		内視鏡切除		切 除		合 計
	件数	(悪性)	件数	(悪性)	件数	(悪性)	
心 血 管	1	0	0	0	1	0	2
血 液 ・ 骨 髄 ・ 脾	13	8	12	1	5	1	30
リンパ節	16	8	33	21	166	53	215
鼻 ・ 咽 頭 ・ 喉 頭	8	2	15	0	5	1	28
肺	144	49	4	0	107	74	255
胸 膜 ・ 縦 隔 ・ 腹 膜	13	8	1	0	31	9	45
口 腔 ・ 唾 液 腺	14	3	4	0	64	2	82
食 道	61	13	2	1	3	0	66
胃 ・ 十 二 指 腸	400	42	8	2	17	15	425
小 腸	4	1	0	0	22	3	26
大 腸 ・ 肛 門	259	29	166	19	81	25	506
肝 ・ 胆 ・ 膵	9	2	0	0	80	14	89
腎 ・ 尿 路 ・ 男 性 器	153	103	106	66	109	64	368
女 性 器	57	14	46	7	186	33	289
乳 腺	9	2	1	0	6	5	16
内 分 泌	0	0	0	0	11	3	11
中 枢 ・ 末 梢 神 經	2	1	0	0	2	1	4
耳 ・ 眼	0	0	0	0	6	2	6
皮 膚	219	52	2	0	742	91	963
骨 ・ 関 節	27	5	0	0	9	0	36
軟 部	4	1	0	0	102	6	106
そ の 他	5	3	61	1	10	1	76
合 計	1,418	346	461	118	1,765	403	3,644

【学会活動】

鹿児島病理集談会および悪性リンパ腫セミナー
(主催：田代幸恵)
2010年12月11日、今給黎総合病院 講義室

小腸 lymphoma
第13回九州胃と腸大会
2010年12月4日 ヒルトン福岡シーホーク
島岡俊治(南風病院)、田代幸恵

座長

第317会九州・沖縄スライドコンファレンス
2010年9月18日 九州大学
田代幸恵(座長)

第318会九州・沖縄スライドコンファレンス
2010年11月6日 熊本大学
田代幸恵(座長)

【論文】

(18)FDG PET for grading malignancy in thymic epithelial tumors: Significant differences in (18)FDG uptake and expression of glucose transporter-1 and hexokinase II between low and high-risk tumors: Preliminary study.

Eur J Radiol, 2010 Aug 30
Nakajo M, Kajiya Y, Tani A, Yoneda S, Shirahama H, Higashi M, Nakajo M.

Effect of an immunotoxin to folate receptor beta on bleomycin-induced experimental pulmonary fibrosis.

Clin Exp Immunol. 2010 Aug;161(2):348-56.
Epub 2010 Jun 9.
Nagai T, Tanaka M, Hasui K, Shirahama H, Kitajima S, Yonezawa S, Xu B, Matsuyama T.

在宅診療科

在宅診療科部長 林 茂 昭

【診療科紹介】

平成23年3月現在、在宅診療科は昨年同様常勤医2名体制をとっております。通院が困難で自宅療養されている方を対象に訪問診察を行っております。訪問診察には常勤医2名が中心となり、他科の先生方に訪問診察の協力も頂き、また理学・作業療法士及び在宅医療部の保健師・看護師と連携を図りつつ訪問診察を行っております。基本的に、2回/月の定期訪問診察を行っております。

【スタッフ紹介】

常勤医

林 茂昭 日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医、日本神経学会専門医
甲斐 太 日本内科学会認定内科医、日本神経学会専門医

訪問診察医師

甲斐、林、荒田(神経内科)、生野(総合内科)、二木(総合内科)、松添(緩和医療科)、
今給黎(尚)(整形外科)

協力医

須田(眼科)

【診療状況】

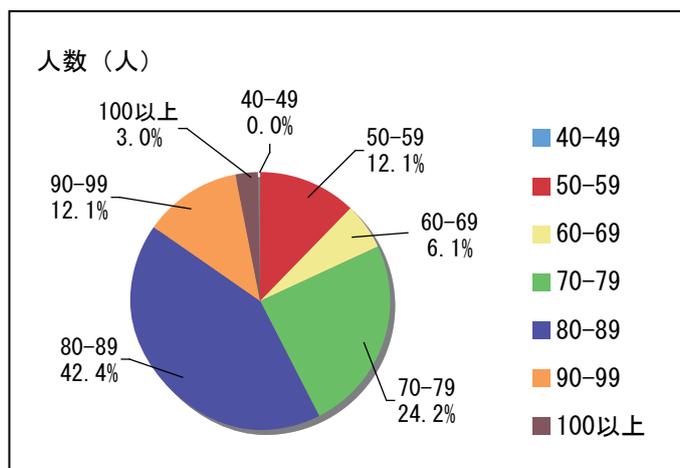
平成23年3月31日現在では当院在宅医療部の訪問診察を受けている方は25名となっています。

全身状態が悪化した場合は、在宅で経過を見る場合もあれば、入院での治療も行っており、自宅療養が再度できるように対応しております。平成22年の診療実績は下記のような状況であります。

年間訪問看護患者総数 33名（男性 15名 女性 18名）

【患者年齢】

年代	人数(人)
40-49	0
50-59	4
60-69	2
70-79	8
80-89	14
90-99	4
100以上	1
合計	33



【平成 22 年度 月別訪問診察人数】（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	24	25	24	22	22	23	23	22	21	21	22	25
（入院数）	2	2	1	2	2	0	2	0	1	1	4	3
終了：死亡	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1
終了：その他	0	2	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0

【主疾患名】

疾患	（人）	疾患	（人）
神経系疾患	8	消化器系	0
脳血管障害	9	内分泌系・代謝疾患	1
循環器疾患	4	その他	3
筋・骨格系、結合組織	6	合計	33
呼吸器疾患	2		

【平成 22 年度 月別訪問件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計（件）
訪問診察	50	57	47	57	48	44	46	43	48	42	37	42	561
訪問リハビリ	13	10	12	11	11	7	7	11	16	12	12	14	136
訪問看護	101	79	92	88	92	98	89	81	86	72	75	106	1,059
合計（件）	164	146	151	156	151	149	142	135	150	126	124	162	1756

【平成 21 年度 月別訪問件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計（件）
訪問診察	46	50	43	56	52	51	46	55	65	51	56	73	644
訪問リハビリ	11	13	16	13	13	11	12	12	13	11	11	13	149
訪問看護	79	66	77	102	106	102	97	109	133	94	113	136	1,214
合計（件）	136	129	136	171	171	164	155	176	211	156	180	222	2,007

【平成 20 年度 月別訪問件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計（件）
訪問診察	34	37	42	48	47	42	36	39	39	41	40	45	490
訪問リハビリ	17	23	12	12	14	12	6	8	13	11	9	14	151
訪問看護	60	88	100	122	122	102	94	83	88	69	74	86	1,088
合計（件）	111	148	154	182	183	156	136	130	140	121	123	145	1,729

歯科口腔外科

歯科口腔外科部長 吉田 雅 司

【診療内容】

歯科口腔外科は、平成18年8月1日に開設され、患者さんや関係各位のお陰で、平成23年で5年を経過します。ありがとうございます。歯科口腔外科外来では、歯科医師3名、歯科衛生士2名、歯科技工士1名、および受付1名の常勤スタッフと7名の非常勤歯科医師で、当院の入院患者やスタッフ、さらにご紹介いただいた患者様を主に診療しています。また、平成23年から長崎大学歯学部口腔外科の関連病院となり、スタッフの派遣が行われるようになり、六反田先生が第一号で赴任しました。

診療は、主に昭和会クリニックで外来診療を、今給黎総合病院で入院診療を行っています。外来診療内容は、う歯、根管治療、義歯やブリッジなどの補綴治療などの一般歯科治療、また、埋伏智歯抜歯を中心とした抜歯、歯の破折や歯槽骨骨折などの外傷治療、歯根のう胞や粘液のう胞などの摘出術、顎関節症、歯科インプラント治療などが中心です。

さらに、次のような専門外来を行っており、患者様の多様なニーズにお答えしております。

- ・歯周病科外来 主に口腔ケアを行います。
- ・補綴科外来 腫瘍切除後の顎補綴や顎関節症における咬合チェックなどを行います。
- ・口腔ペインクリニック 顎顔面領域の神経痛や麻痺、痺れといった神経症状の治療を行います。
- ・漢方歯科外来 口腔粘膜疾患の診断・治療を行います。
- ・お口のカウンセリング外来 様々なストレスに起因する口腔疾患における患者様のお話をお聞きして、適切なアドバイスを行います。
- ・スポーツ歯科外来 スポーツ選手に対してマウスガードの作成や咬み合わせのチェックを行います。

一方、入院では、顎矯正術を中心に、有病者の抜歯や歯科治療、およびさまざまな口腔外科的疾患の手術や治療に対応しております。最近の傾向としては、小下顎による睡眠時無呼吸症候群患者の下顎骨形成術が増加しています。

本院は、他科との連携が非常にスムーズで、有病者の患者様はもちろんのこと、常に安心できる歯科医療を提供できる環境が整っております。その一環として、院内に口腔ケアチームを立ち上げ、鎌田先生を中心に総合的に入院患者や外科手術前患者の口腔清掃に努め、嚥下性肺炎の防止、外科手術後の創感染可能性の減少に努めています。また、自己血チームでは、より安心・安全な自己血輸血の実施できるよう体制整備や勉強会を行っています。当院は、看護師やその他のスタッフの方々の献身的な支えがあって、充実した診療が行えていると思います。さらに、努力し、今給黎総合病院・昭和会クリニックから情報発信が出来るよう、頑張っていきたいと思います。

【スタッフ紹介】

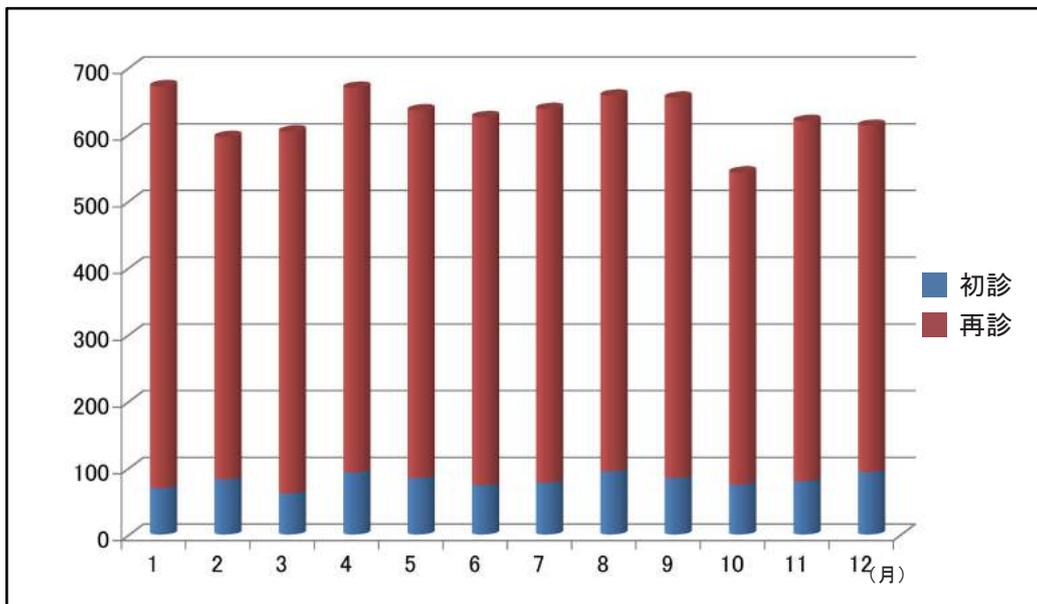
吉田雅司(歯科医師)今給黎総合病院常勤、専門分野：歯科口腔外科
鎌田ユミ子(歯科医師)昭和会クリニック常勤、専門分野：一般補綴、一般歯科 老年歯科
六反田賢(歯科医師)昭和会クリニック常勤、専門分野：歯科口腔外科、一般歯科
瀬戸山智香(歯科衛生士)
川越理恵(歯科衛生士)
前田まどか(歯科技工士)

【平成 22 年度 統計】

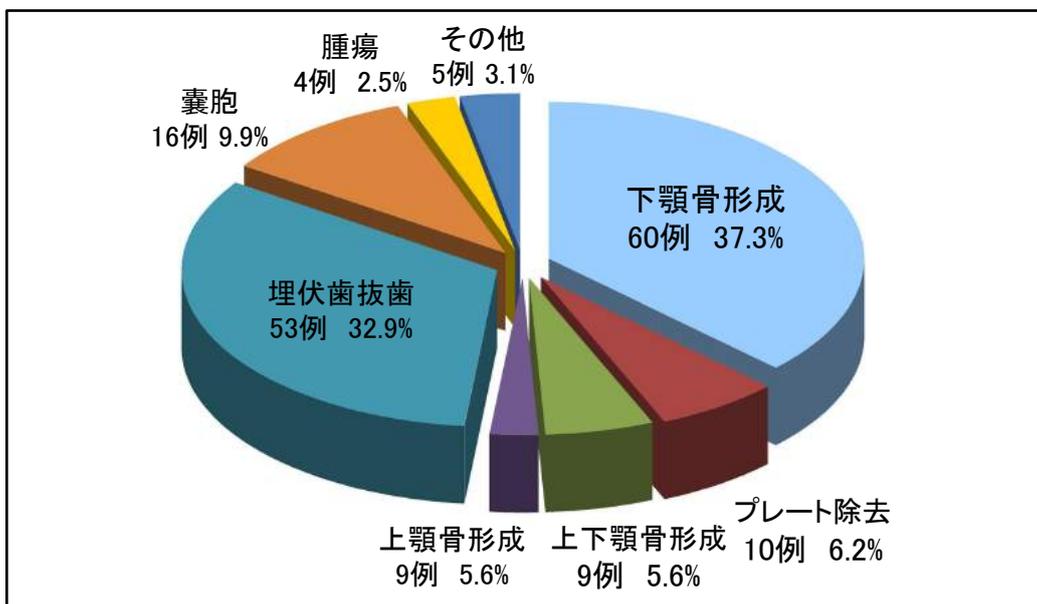
- ・ 外来患者数 7,531 人（新患 974 人）
- ・ 入院患者 164 名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
初診	70	83	62	93	85	74	78	95	85	75	80	94	974
再診	602	513	542	577	551	552	560	563	570	468	540	519	6,557
人数	672	596	604	670	636	626	638	658	655	543	620	613	7,531

【平成 21 年度月別外来患者数】



【平成 22 年度手術数 (161 症例)】



【2010 年度業績】

【学会開催】

第24回日本自己血輸血学会学術総会
鹿児島市 2010年3月11-12日
<http://jsat24.umin.jp/>

【学会発表】

Surgery Firstで治療した 睡眠時無呼吸症候群の
1例

第20回日本顎変形症学会総会 札幌市
2010年6月15-16日
吉田雅司、黒江和斗¹⁾、湯田晃大²⁾
1) 矯正歯科くろえクリニック
2) 湯田歯科医院

上下顎骨形成術で治療した睡眠時無呼吸症候群患
者の一例

日本睡眠学会第35回定期学術集会 名古屋市
2010年7月1-2日
吉田雅司、黒江和斗¹⁾、高岡俊夫²⁾
1) 矯正歯科くろえクリニック
2) 高岡病院

A case of left complete cleft lip and palate
to which orthodontic treatment has not been
received after the initial cheiloplasty and
palatoplasty done at infancy

CLEFT 2010 ICPF ソウル 2010年6月9-12日
Masashi YOSHIDA, Kazuto KUROE¹⁾、Akihiro
YUDA²⁾、Reiko YOSHIDA³⁾
1) Kuroe Orthodontics Clinic
2) Yuda Dental Clinic
3) Kagoshima University Medical and
Dental Hospital, General Dental Prac-
tices, Kagoshima, Japan

Cleft lip/palate in Myanmar: Activities of
Japan Cleft Palate Foundation (JCPF) Myanmar
Team Technical Transferring Mission for Cleft
Lip/Palate

CLEFT 2010 ICPF ソウル 2010年6月9-12日
Masashi YOSHIDA, Hideo TASHIRO¹⁾、Satoru
OZEKI²⁾、Kiyomi KAWASHIMA³⁾、and Nagato
NATSUME⁴⁾
1) Emeritus Prof. of Kyushu University
2) Department of Oral and Maxillofacial
Surgery, Fukuoka Dental College
3) Department of Oral and Maxillofacial
Surgery, Kagoshima University Dental
School
4) 2nd Department of Oral and Maxillofa-
cial Surgery, Aichi-Gakuin University

シンポジウム：スポーツ外傷の予防と治療

スポーツ外傷に対する口腔外科的アプローチ

第 21 回日本スポーツ歯科医学会総会・学術大
会 福岡市 2010年7月10-11日
吉田雅司

下顎埋伏智歯抜歯後の菌血症に関する検討

第78回日本口腔外科学会九州地方会 福岡市
2010年9月4日
吉田雅司、中村令奈、湯田晃大¹⁾
1) 湯田歯科医院

睡眠時無呼吸症候群患者に対する外科的矯正治療
の評価

第54回日本口腔外科学会総会 札幌市
2010年10月17-18日
吉田雅司、黒江和斗¹⁾、湯田晃大²⁾
1) 矯正歯科くろえクリニック
2) 湯田歯科医院

歯科シンポジウム

自己血由来の成長因子の臨床応用

第24回日本自己血輸血学会学術総会 鹿児島市
2010年3月11-12日
吉田雅司

【講演、その他】

国際救援活動の現状：

私の国際貢献～ミャンマー医療援助隊～

鹿児島県医療法人協会立看護専門学校 鹿児島市
2010年4月19日
吉田雅司

今給黎総合病院の歯科口腔外科的現状

九州歯科大学鹿児島県同窓会 鹿児島市
2010年5月15日
吉田雅司

スポーツ歯科の現状とスポーツ外傷に対する口腔
外科的アプローチ

吉見デンタルフェアー 宮崎市
2010年10月3日
吉田雅司

ミャンマーについて～医療援助隊としての関わり～

九州ミャンマー友好協会鹿児島支部設立総会
鹿児島市 2010年10月23日
吉田雅司

ミャンマー医療援助隊

国分ロータリークラブ 霧島市
2010年11月11日
吉田雅司

【研究会開催状況】

第17回鹿児島自己血輸血療法研究会

2010年7月17日今給黎総合病院講義室

第6回鹿児島スポーツ健康医学歯学勉強会

2011年2月12日今給黎総合病院講義室

【院外活動（ボランティアなど）】

〈市民公開講座〉

韓国から薩摩へ、薩摩から世界へ～薩摩焼～その
歴史ゆえの悲しみと喜びを思う時

「陶房雑話」第15代沈壽官

かごしま県民交流センター 鹿児島市

2011年3月12日

東日本大地震被災者支援チャリティー「ONE」

後援：今給黎総合病院・山形屋

天文館ベルグ広場 鹿児島市

2011年3月29日